2016 年 1 月 1 日

青森大学ニュース No.29

青森大学の未来像へ向かって

学長　崎谷康文

はじめに

私が学長に就任して提唱してきた「青森大学ルネッサンス」は、青森大学の再興と新生を目指し、時代を先取りし、未来への展望を見据えて、大きな目標へ向かい、計画に沿い、点検・評価そして改善を図りながら、一歩ずつ改革を進めていく運動である。「青森大学ルネッサンス」の考え方は次第に学内外に浸透し、大学の運営、教育研究、社会貢献など大学の活動全般にわたる改革の成果が見えてきている。大切なことは、ここで立ち止まることなく、全学が一致協力して努力を続け、改革をさらに前進させていくことである。

先行き不透明な時代が続いている。しかし、このような時にあってこそ、青森大学の現状を確認し、未来への展望をしっかりと見据え、計画的な活動を進めていくことが肝心である。

１　青森大学の使命、特色―地域とともに生きる文理そろった総合大学―を再確認する

青森大学は、昭和４３年の設立以来、地域社会に根差し、「地域とともに生きる大学」として歩んできた。青森大学の建学の精神、基本に立ち返って考えると、青森県を中心とする地域から入学してくる学生に大学教育の機会を与え、地域社会の未来を担う人材として社会に送り出していくことが青森大学の最も重要な責務である。併せて、積極的な教育研究活動等を通じ、地域社会の振興・活性化の拠点となっていくことが大きな使命である。

青森大学は、設立時からの経営学部に、社会学部、ソフトウェア情報学部及び薬学部が加わり、小規模ながらも文系理系がそろった総合大学である。これが本学の大きな特色であり、強みである。現代そして未来の社会は、様々な個性や能力を持つ人材の協働により築かれる。自分の得意分野以外は知らないでは済まされない。例えば、経営学部や社会学部などから企業に就職したとき、青森大学では、「基礎スタンダード科目」を通して、理系の学問に関することなども学んでいるので、営業の際に自社の工業製品を理解し説明することができる素地が身に付いている。ソフトウェア情報学部や薬学部を卒業し技術者になり薬剤師になったとき、知識や技術が優れているだけではなく、コミュニケーション能力や表現力が備わっているので、人間味のある技術者あるいは薬剤師として認められる。

青森県近辺において、青森大学のような総合的な魅力のある大学は、国立を除けば、ほとんど見当たらない。青森大学は、高校生の進路として多くの選択肢を示しており、さらに、青森大学に入れば、多様な個性、能力の学生や教員との交流ができる。これは、高校生が進路を考えるときの大きな魅力にならなければならない。例えば、スポーツが得意な高校生に入学を勧めるとき、青森大学に入れば、スポーツができることは当然であるが、学生本来の学業を確実に身に付けることができ、資格や教員免許取得も可能であるので、就職の状況もいいと説明できる。現に、例えば、青森大学硬式野球部が合宿するときには全員３冊以上の本を持っていくことが慣わしであり、金融機関や地方公共団体へ就職する者も

多い。

青森大学は、近隣の他の大学にはない特色、魅力を持つ大学であることをもっと示していく必要がある。

２　未来像を築く必要性―ＰＤＣＡの改革サイクルを確立する

「青森大学ルネッサンス」を具体的に進めるには、①進めるべき活動を体系化し、全体の形が見えるようにすること、②すべての活動について、進行管理を的確に行うこと、③最後の詰め―目標達成―まで全力を尽くし確認することが必要であることを明確にしてきた。

大学は学術の中心として教育研究等を進めるに当たり、長期の見通しを明確にして、目標に向かって計画的に活動を行わなければならない。

教育研究の活動は、日々の積み重ね、一瞬一瞬の連続という性格を持つ。様々な変化に臨機に対処しながら教育研究は進む。しかし、それだけでは行き当たりばったり、その場しのぎにすぎない。教育研究は本来息の長い仕事と心得て、目標、目的に向かって、手順を踏んで進める必要がある。日々の積み重ねと息の長い仕事という両面からの的確な対処が必要である。

現代社会は変化が著しく、予測を超えることが生じることも多い。しかし、想定外であったと済ませていては、破滅への道をたどる。将来の展望を踏まえ、未来像を描くことができれば、その目標に向かい、協力体制で活動し、また、思いがけない事態への対処も臨機にできるようになる。未来像が関係者全員により共有されているときには、何をやるべきかが明確になっているので、新たな問題が生じたとき、手順や効果の検討が円滑にできる。誰かが思いつきで考えたことなどに右往左往することは避けなければならない。

ＰＤＣＡの改革サイクルの確立が大学の運営、教育研究等の推進にとって必須となっている。青森大学は、目標と計画を確立し、その達成へ向けて具体的な活動を進め、成果や実施状況を点検評価して改善し、改革していくという、連続する活動を強化しなければならない。

これまでも、１８歳人口の動向や地域社会の要望等を踏まえ、学部や学科、コースの構成や教育科目の内容などについて常に刷新を図り、地域からの信頼に応える努力をしてきた。今後、さらに、ＰＤＣＡサイクル（計画―Ｐｌａｎ・実行―Ｄｏ・評価―Ｃｈｅｃｋ・改善―Ａｃｔｉｏｎの継続的な循環により不断の改革を進めること）を確立し、改革サイクルが一層有効に機能するよう、工夫し努力していく必要がある。

大学の機関別認証評価は、平成１６年度からの認証評価の最初の７年のサイクルが終わり、二期目に入っている。青森大学は、平成２９年度には認証評価を受けなければならない。二期目の認証評価については、各大学が行う自己点検・評価の結果分析を踏まえ、評価機構が定める評価基準に基づき、教育研究活動等の総合的な状況を評価するとともに、自己点検・評価の検証を行い、各大学の自主的な質保証の充実を支援することとなっている。言い換えれば、質保証の主体は大学であり、その基本は大学の自己点検・評価にあって、大学が自ら行う自己点検・評価の結果を踏まえ、それを土台にして評価機構が評価する。したがって、大学自らが自己点検・評価の活動を効果的に実施し、ＰＤＣＡの改革サイクルが有効に機能している必要があるが、ＰＤＣＡサイクルの確立のために未来像がなくてはならないことは当然である。

３　危機意識を共有して未来像の実現を目指す必要がある。

青森大学を取り巻く環境は極めて厳しく、深刻な危機にある。その危機を克服するために、未来像を明確にして、その実現に向かって全教職員が一致協力して立ち向かわなければならないことを自覚する必要がある。

危機は、何よりも、人口減少社会の急速な進行と地方の衰退から生じている。少子化、高齢化の流れは変わらず、特に地方において顕著である。１昨年５月、日本創成会議（増田寛也座長）が、２０歳から３９歳までの女性人口が５割以下に減少する地方自治体「消滅可能性都市」が全国の４９．８％に当たる８９６市区町村であると指摘し、地方再生が政治の重要課題となった。政府の「まち・ひと・しごと創生本部」が１昨年１２月、地方再生の処方箋として、「総合戦略」を策定したが、効果が現れるのはこれからであり、何よりも地方自身の努力が問われている。

昨年１０月１日の国勢調査時の青森県の人口は 130 万 8,649 人で５年前から 6 万 4,690 人（４．７％）減っている。青森県から首都圏への人口流出は止まっていない。特に、若者の流出を食い止め、東京一極集中を是正しなければならない。地域の特色ある資源を活用し、雇用の確保、産業の発展、魅力ある街づくりを進めることが急務である。

平成２４年の我が国の大学への進学率は５１％であり、ＯＥＣＤ諸国の平均６２％より低く、また、東北地方や九州地方は、さらに進学率が低迷している。青森県の平成２７年３月の高等学校卒業者 12,547 人のうち大学、短期大学等へ進学した者は、5,363 人で４０．９％である。昨年より若干増えたが、極めて低い状況であり、青森県そして日本の未来にとって憂慮すべき事態である。しかも、そのうち県外の大学、短期大学へ進学した者は 3,037 人である。低い進学率の上に県外への流出が半数をはるかに超える。高等学校卒業者のうち専修学校（専門課程）へ進学した者は 1,822 人で１４．５％である。

進学率の低さは、地域の経済の厳しさの中で親からの経済的支援が十分得られないことが影響しているが、県外への流出が多いのは、県内の大学の魅力が認められていないことが大きな理由である。

地域社会の消滅の恐れと大学進学率の低迷に直面し、青森大学は存亡の危機にある。このことを青森大学の全ての教職員が認識し、危機意識を共有し、この危機を乗り切っていかなければならない。

４　青森大学の未来像の明確化―グランドデザインに基づく改革―進化する大学へ

青森大学の未来像は、５年後、１０年後、さらにその先を見通した青森大学の望ましい姿と言える。

青森大学の未来像の基盤となる考え方は、「青森大学ルネッサンス」の理念であり、「地域とともに生きる大学」と「学生中心の大学」のための活動を一層推進することにより実現していかなければならない。「青森大学ルネッサンス」に基づく改革を強化・加速化することが今こそ必要である。そのための学長ガバナンスの確立による全学マネジメントの体制が整ってきており、全ての教職員が協働して改革に参加することが不可欠であることを肝に銘じる必要がある。

未来像の方向は、平成２７年５月２２日の学校法人青森山田学園「青森山田学園グランドデザインー改訂基本構想ー」に示されている。このグランドデザインは、まず、青森山田学園全体の教育理念として「未来を拓くたくましさ」を掲げ、３つの基本方針として、「地域に根差した教育機会の再構築」、「学力と実践力」及び「体験を重視した文化多様性の教育」を示している。青森大学の改革は、この教育理念及び基本方針に沿ったものであり、先取りしたものである。「青森大学ルネッサンス」に基づく改革をさらに工夫し改善しつつ充実させていくことが求められている。

グランドデザインは、「青森大学ルネッサンス」の下で進められている「地域とともに生きる大学」と

「学生中心の大学」の一層の推進により教育研究内容と大学運営の刷新を継続するべきことを明確にしている。

未来像を明確にし、改革を続ける必要性があるのはなぜかをしっかり考える必要がある。「青森大学ルネッサンス」に基づく改革は、なお継続途上にある。様々な新たな課題にも対処していく必要がある。改革による成果をこれまで十分に示せていないし、また、改革・改善が遅れているところもかなりある。時代や周辺の環境は著しく変化し続けているので、大学自身が常に時代の先頭に立って活動しなければならない。

このような観点から、青森大学は、いつも新しい大学、進化し続ける大学でなければならない。

５　青森大学の学部構成に関する未来像

青森大学の４学部のうち、薬学部は６年制で薬剤師という高度な専門職業人を育成する機関である。医師養成等と同様、薬剤師養成が大学において行われるのは、薬剤師は単なる技術者ではなく、人間性豊かで確かな教養を基盤に持つ高度な技術を持つ専門職業人であるからである。青森大学薬学部は、単科の薬科大学と比較すると、大きな強みがある。人間教育を基盤とできる特性を青森大学は有している。薬剤師は、薬局の顧客や患者などと広く接するが、科学的見地を踏まえつつ、個々の事情に応じたきめ細かな指導助言を行うことが使命である。チーム医療の一員となることも大いに期待されている。青森大学は、平成２５年度から、教養科目を再構築して、「基礎スタンダード科目」を設定し、４学部の学生が協働して主体的に学び、また、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れて、表現力、発表力、考察力などの向上を図っている。このような基礎が専門科目の学びにつながって、青森大学の薬剤師養成への期待は大きくなっている。青森県の薬剤師不足は深刻で、人口当たりの薬剤師数は全都道府県の下から２番目である。短命県を返上し健康長寿社会を築くために、薬剤師の役割がますます重要となる。青森大学薬学部は、薬剤師養成教育を地域社会との連携を強めながら、格段に強化しなければならない。

グランドデザインは、現在の経営学部、社会学部及びソフトウェア情報学部については、地域社会の要望や高校生の期待にさらに応えていくため、廃止・統合等を含めた抜本的な改革を行うべきことを提言している。これに基づき、３学部の再編計画の具体化へ向けて作業を進めている。

現状における計画は、次のとおりである。

① 平成２９年度から経営学部を総合経営学部へ名称変更

経営学部について、社会学部、ソフトウェア情報学部と統合し１学部とすると、保健体育の教員免許の課程認定を得ることが困難となる（経営学士の課程については再認定が困難との方針が示されている）ので、経営学士の学部を維持しつつ、改革を進める。平成２９年度までは会計・事業マネジメントコース、経営情報コースとスポーツビジネスコースとするが、平成３０年度から経営・会計コースとスポーツビジネスコースへ集約するとともに、関連する社会学、情報工学等幅広い分野を学びつつ、専門性を高める学びを強化する。

② 平成３０年度から社会学部とソフトウェア情報学部を統合し、現代社会情報学部（仮称）を設置

コミュニティ創成学科（社会学士）と情報システム学科（情報工学士）の文系理系の学部とする。コミュニティ創成学科は、地域社会コースと社会福祉コースとする計画である。総合経営学部との共通専門科目を設定することなどにより、総合経営学部と現代社会情報学部は、これからの地域社会の再生・活性化を担うことができる人材を養成することを強く訴えていく。

現状の計画を実現するため、文部科学省の担当部局との事務的な相談、事前相談を進めているところ

であるが、学生確保の見通しを明確に示す必要があることを踏まえ、また、教員の体制等について手直しが必要になることなども想定しながら、的確に準備を進めていくことが求められる。

既に、平成３０年度からのカリキュラムについては、基礎スタンダード科目及び専門科目については、相互の連携と合理化を図り、かつ時代の進展に対応できる内容となるよう、計画を作成しており、平成２８年度のカリキュラムがそこへつながっていくよう、準備を進める必要がある。

薬学部の充実と他の３学部の整備・再編は、「地域とともに生きる大学」と「学生中心の大学」のための改革の延長線上にある。「青森大学ルネッサンス」のよりよい実現へ向けての方策と理解し、青森大学が未来志向の改革を進めていることを積極的に発信していく必要がある。

６　青森大学が育てるべき人材像

青森大学の未来像を描くためには、青森大学が育てるべき人材像を明確にすることが必要である。

青森大学が育てるべき人材像の基本は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に明示されているとおり、次の３つの力を持つ人材である。

①　生涯をかけて学び続ける力

②　人とつながる力

③　自分自身を見据え、確かめる力

青森大学の教育の方針は、全ての学生にこれら３つの力を身に付けさせ、未来を拓く実践力を育てていくことである。

青森大学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）においては、この３つの力を身に付けることができる素養と意欲のある入学志願者、即ち高校までの知識や経験に加え、青森大学での学習を通し自らの能力を向上させる意欲、地域社会への積極的参画への志向等を持つ入学志願者を求めている。

青森大学のカリキュラムは、教員が教えられることという視点ではなく、学生が学ぶべきこと、身に付けるべきことを基本として、即ち学生本位の視点により、組み立てている。そして、教育方法を抜本的に工夫改善し、学生の主体性、多様性、協働性を活かし、学んだ知識や技術をしっかりと確認しながら、それらを活用して表現力、判断力、思考力を伸ばすことができるように、双方向の授業、グループによる協働作業や体験活動などを導入している。このような能動的学修（アクティブ・ラーニング）の推進により、学生の学ぶ意欲が高まり、学びのスキルが育てられている。

青森大学の教育の眼目は、「社会に役立つ実践的な教育」である。社会に出て指示されたことができるだけの知識や技術では、すぐに役に立たなくなる。企業や地方公共団体等の学生の就職先は、必ずしも即戦力を求めてはいない。困難に立ち向かう意欲と学び続ける能力を持つことを大学卒業生に求めている。青森大学の実践的な教育が社会の役に立つ教育である所以は、新たな事態へも対応できる応用力、判断力を身に付けさせているからである。基礎スタンダード科目の教養コアで確かな教養、技能コアで実践スキルそして創成コアで自己開発力を備え、その基礎につながる専門科目において理論や知識、技術と応用や実践に関わる学びを深めている。演習等により学生同士の切磋琢磨と教員の親身な指導があり、学生は、高い専門性と広い汎用能力を身に付けて卒業する。

青森大学の学生は、①現代社会に向き合い、問題意識をもって解決に取り組む意欲、②自己を深くみつめ、成長しようと努力する姿勢、③自らの能力を開発し、社会に貢献しようとする意志を持とうとして学業に励んでおり、大学の教職員はこのような学生の学びをさらに後押ししていかなければならない。

３つの力を持つとは、具体的にはどういうことか、確実な肉付けをして教育を進めることが大切である。現代と未来の変転を生き抜いていくためには、

① 好奇心と向上心を持って、常に知識と技術を磨く。

② 新たな課題に対し恐れず、論理的な思考を重ね、工夫を活かし挑戦する 。

③ 孤立せず、協働し連携協力して解決策を求めることができる。

④ 短期的な対処だけではなく、長期的な展望と洞察力を持ち、計画的、持続的に行動する。

⑤ 地域からの発想を大事にしながら、地球的視野で考えることができる。

などの能力が必要であり、このような能力を発揮できる人材を育てていくことが青森大学の重要な使命である。

７　未来像を実現するために必要なこと

・大学の主体的な責任を果たすこと

大学の未来像の実現のために、学問研究の性格にかんがみ自立性があり、主体的な運営を行う組織である大学として、最善の努力を傾注していかなければならない。私立大学は、経営母体である学校法人の理事会との適切な連携と協調の体制を整えることが必要であるが、教育研究を中心とする大学運営の主体的な責任は、大学自身が全うしなければならない。青森大学は、「青森大学ルネッサンス」の考え方に基づき、①組織統御の体制の確立（ガバナンス）、②法令遵守と使命感・倫理観（コンプライアンス）、③透明性と説明責任（トランスペアレンシ―）を重視して、学長ガバナンスの体制を整備しており、青森大学の意思決定の在り方として、大学の自立性にかんがみ、①大学に関する事項については、学長に集約し決定して実行すること、②設置者である学校法人青森山田学園は、大学の教育研究活動等が学長の指揮の下で的確に行われるよう、大学との意思疎通を緊密にして、支援し援助すること、③大学と法人の役割を明確にし、健全な関係を築き、一体的に活動ができるようにすることが必要である。

・地域活性化の拠点となること

地域社会を取り巻く危機を克服するために、地域の再生・創生を進めるには、質の高い高等教育機関としての大学の役割が極めて大きく、また、期待されている。青森大学は、地域に根差し、文系理系のそろった強みを活かして改革を進めており、地域の再生・活性化の中核的役割を担うべきである。地方の経済社会の再興のためには、大学の人材を活かして地域社会で活躍する層の厚みを増すことが必要である。

青森大学は、青森県教育委員会、青森市、平内町との連携協定を結んでおり、また、青森商工会議所、青森県中小企業家同友会等経済団体などとの連携協定を締結し、様々な連携協力の事業を実施している。今後、青森県をはじめ、さらに広く連携を図り、地域貢献のための活動を充実させていく必要がある。地域コミュニティの再生のための取組み、情報技術の活用などによる産学官連携の事業、健康長寿社会の構築のための啓発・教育等に関する事業、観光や市街地活性化など地域の経済社会の再構築を目指す取組みなど、青森大学の強みを活かして充実させていくことが重要である。教員だけでなく、学生が参加することで、未来志向の活動を展開していくことが必要である。

・青森大学の学生がますます元気になること

青森大学の改革の大きな柱は、「学生中心の大学」を作ることである。平成２５年度からのカリキュラム改革が進展し、学生の学ぶ意欲が向上していることは疑いない。しかし、まだまだやるべきことは多い。アクティブ・ラーニングは徐々に採り入れられているが、学生の意欲や知的好奇心をさらに高め、

教育の成果が上がるようにしなければならない。学生たちが学業そして大学生活を充実させ、キャンパスが元気な学生でもっとにぎやかになるようにする必要がある。入学から卒業までに学生が付加価値を高め大きく成長し、社会に巣立っていくように教育改革を継続していく必要がある。そのためには、教職員がこれまで以上に親身できめ細かな配慮により適切な指導をし、また、よき相談相手になることが求められる。平成２６年度からスチューデント・アシスタント制度を導入し、また、学業優秀学生の表彰を始めていることなどにより、学生の積極性、向上心が高まっているが、さらに工夫努力していく必要がある。

改めて、学生が身に付けるべき３つの力を確認し、カリキュラム、教育方法、教育評価の改革を進めていかなければならない。

・青森大学の魅力を高め、学生募集の成果を上げること

青森大学が地域社会から信頼され、地域になくてはならない存在となるには、青森大学の魅力を高め、入学者の確保を図ることが最重要の課題である。

私学である青森大学は、学生からの納付金収入が最も重要な資金源であり、授業料等は国公立より高く設定している。それでも、志願者を多く、かつ入学者が定員を超えるようにするには、青森大学の教育を通じ実力を身に付け成長していくことは、他の大学にはない、素晴らしい魅力となることを示していかなければならない。

青森大学は、青森県を中心に広く北東北、そして北海道南部から大多数の志願者があるように努力する必要がある。青森県内でも東青地区の高校からだけではなく、弘前、黒石など津軽地域、十和田、三沢、八戸、むつ地区など広く青森県内の高校、さらに、秋田県、岩手県、北海道南部などからの志願者、入学者を増やしていく必要がある。そのためには、何よりも青森大学の教育の魅力を高めることが必要であり、広報発信を強化していくことが求められる。

系列校である青森山田高等学校、県立青森商業高等学校、青森工業高等学校、青森中央高等学校と連携協定を結んでおり、個々の高校との具体的な連携、接続の活動を強化し、高校の教員、生徒や保護者等に、青森大学がどのような大学か、どのような強みを持っているのか、十分に理解されるよう、格段の努力が必要である。

さらには、留学生の増のための活動を強化し、社会人の入学者（編入学者を含む。）の増のため、広報活動等を工夫し充実させる必要がある。

・未来像を実現するために教職員一人ひとりに求めたいこと

青森大学の未来像を明確に描き、これを全ての教職員が共有し、ゆるぎない決意を持って改革に努めることが必要である。これまで述べてきたように、青森大学は、地方の私立大学として極めて厳しい危機、未曾有の危機に直面している。したがって、危機意識の共有が大前提である。しかし、この危機は、未来像の実現へ向けて教職員全てが一致協力して危機に立ち向かっていくことにより克服できると確信する。

大学の主体的責任を自覚し、大学としての自律性を高める必要がある。大学自らが危機に対処し改革を進めなければ、未来像の実現はない。未来像の実現に向かって動かなければ、青森大学の将来はない。

青森大学の魅力と存在感をさらに高め、青森大学は進化し続ける大学であり、常に新しい大学であることを発信して、オール青森で支えられる大学とならなくてはならない。学生が生き生きと活動している元気な大学、教職員全てが士気を高く持って、積極的に教育研究等の活動を行う大学であることが、もっと見えるようにしたい。

全ての教職員が改革の担い手であることを自覚し、個人の判断に陥らず、大学全体の立場を踏まえ、相互の協力や意見交換を怠らず、ボトムアップで活性化を進める気概を持たなければならない。改革は待ったなしであり、教職員一人ひとりが明るく前向きに教育研究等の業務を行うこと、即ち教職員がよい方向に変容していくこと、教職員が変わることにより学生が変わるという好循環を生み出していきたい。

青森大学の教育研究活動等は充実改善が進んでいる。しかし、外から見えなくては意味がない。全教職員が全学の広報宣伝を担当すると心得て活動することが必要である。

学長の活動（平成２７年７月～１２月）

［随筆・評論等］

青森大学ホームページの学長ブログ

随想「大空を見上げて」

第４０回「世界遺産をめぐって」　第４１回「戦後７０年」

第４２回「菊谷栄の夢」　第４３回「元気な大学祭」

第４４回「『思ひ出』と『津軽』」第４５回「環状列石と周堤墓」

評論「学びの温故知新」

第３９回「教員給与の見直しの動向―メリハリを付けるということ―」

第４０回「教員人事行政の適正化へ向けて」　第４１回「教職員と政治活動」

第４２回「義務教育費国庫負担制度の意義」

第４３回「義務教育費国庫負担制度の見直し」

第４４回「義務教育費国庫負担制度の必要性をめぐって」

「教育プロ」（株式会社 ERP 発行）掲載の「時評」

「職業教育のための新高等教育機関」（平成 27 年 8 月 4 日号）

「近現代史をどう教えるか」（平成 27 年 10 月 6 日号）

「素質と環境」（平成 27 年 12 月 1 日号）

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ひとこと」

「社会の役に立つ大学」（第 6457 号（平成 27 年 11 月 13 日））

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ラウンジ」

「道徳教育の大転換」（第 6393 号（平成 27 年 9 月 18 日））

［社会的活動等］

日本イコモス国内委員会監事・第８小委員会委員長（理事会 9 月 12 日、第８小委員会 10 月 22 日、第８小委員会 12 月 2 日）

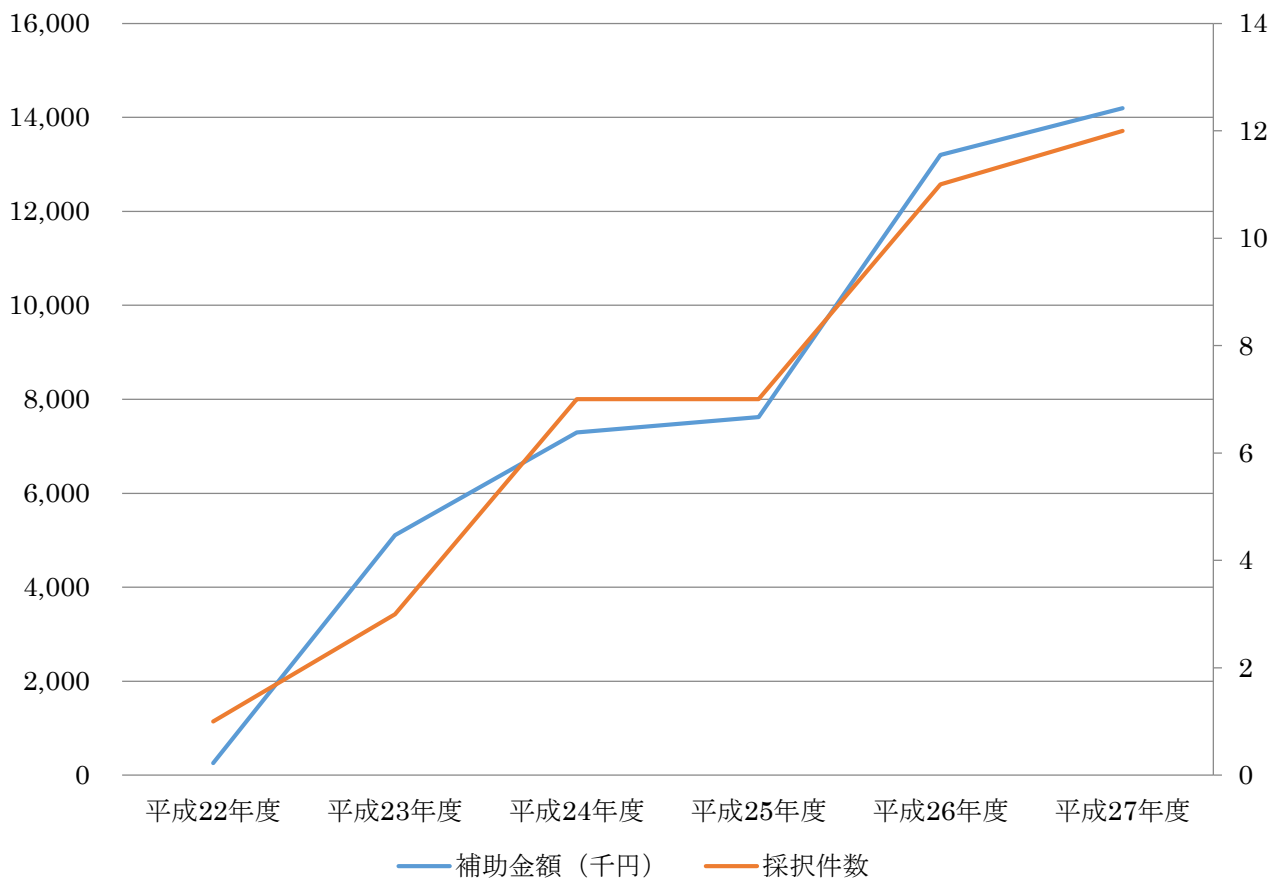
公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事（理事会 11 月 13 日）

公益財団法人がん研究会評議員（評議員説明会 12 月 3 日、評議員会 12 月 17 日）

縄文遺跡群世界遺産登録推進本部参与（第４回登録推進本部会合 12 月 26 日）

外部研究費等の取得状況について

文部科学省の事業である科学研究費助成事業の採択件数は、各大学で研究能力・実績を示す指標として重要視されています。近年、本学の研究者が関わる課題の採択件数及び補助金額は増加傾向にあり、平成 22 年度は 1 件（26 万円）であったものが、平成 26 年には 11 件にまで増えました。平成 27 年度は、採択件数では 12 件、助成額では 1419.6 万円まで伸び、採択件数及び助成額ともに過去最高となりました。また、平成 27 年度の科学研究費以外の外部研究費の取得額は、助成額が決定していない研究を除いて、601.3 万円でした。科研費以外の研究助成の決定時期は、4 月以降の研究費も多くあるため、今後増える可能性があります。研究課題及び助成額などは、外部研究助成金の獲得状況の概要に示された表のとおりです。



科学研究費の採択件数及び採択額の推移

外部研究助成金の獲得状況の概要

文部科学省科学研究費助成事業

①　平成 27 年度新規採択状況

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 経営学科 岩淵　護　准教授 （研究分担者） 中村　和彦　准教授 堀籠　崇　　准教授 松本　大吾　講師	取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究	1,560,000 円 直接経費 1,200,000 円 間接経費 360,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 27 年～30 年度）
（研究代表者） 社会学科 澁谷　泰秀　教授 （研究分担者） 小久保　温　准教授	高齢者の生活の質を維持・向上させる自動的心理プロセスに基づいた認知習慣の研究	1,560,000 円 直接経費 1,200,000 円 間接経費 360,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 27 年～29 年度）
（研究分担者） 社会学科 澁谷　泰秀　教授 ソフトウェア情報学科 小久保　温　准教授	社会学的知見に基づく Web 調査の代表性の分析	713,700 直接経費 549,000 間接経費 164,700	研究代表者 奈良大学 吉村 治正 基盤研究（Ｃ） （平成 27 年～29 年度）
（研究分担者） 社会学科 櫛引　素夫　准教授	人口減少期の都市地域における空き家問題の解決に向けた地理学的地域貢献研究	507,000 直接経費 390,000 間接経費 117,000	研究代表者 広島大学 由井 義通 基盤研究（Ｂ） （平成 27 年～30 年度）

②　平成 27 年度新採用教員の科研費獲得状況

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 薬学科 大越　絵実加　准教授	口腔癌がん幹細胞の標的治療(抗 CD44 療法)後に誘発される多剤耐性化の解明と克服（転出元の大学からの継続研究）	1,950,000 円 直接経費 1,500,000 円 間接経費 450,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 26 年～29 年度）

③　前年度からの継続研究（科研費）

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
（研究代表者） 薬学科 中田和一教授	反射波遮蔽フェンスによるローカライザの積雪障害の抑制に関する研究	650,000 円 直接経費 500,000 円 間接経費 150,000 円	基盤研究（C） （平成 25～27 年度）
（研究代表者） 経営学科 沼田　郷　准教授	日本と台湾における光学産業の成長と連鎖	650,000 円 直接経費 500,000 円 間接経費 150,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 26～28 年度）
（研究代表者） 経営学科 堀籠　崇　准教授	医療法人病院のガバナンスと意思決定	910,000 円 直接経費 700,000 円 間接経費 210,000 円	若手研究(Ｂ) （平成 25～27 年度）
（研究代表者） 経営学科 渡部　あさみ　講師	先進諸国におけるホワイトカラー労働者の労働時間管理	1,170,000 円 直接経費 900,000 円 間接経費 270,000 円	若手研究（Ｂ） （平成 26～28 年度）
（研究代表者） 社会学科 佐々木 てる　教授 （研究分担者） 澁谷 泰秀　教授 柏谷　至　教授 櫛引 素夫　准教授 田中 志子　准教授	人口減少社会の外国人統合政策 ～青森県における外国籍者の事例から～	1,430,000 円 直接経費 1,100,000 円 間接経費 330,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 26～28 年度）
（研究代表者） ソフトウェア情報学科 小久保　温　准教授 （研究分担者） 澁谷 泰秀 教授	郵送調査とWeb 調査のハイブリッド調査から完全Web 調査への移行に関する研究	2,080,000 円 直接経費 1,600,000 円 間接経費 480,000 円	基盤研究(Ｃ) （平成 26～28 年度）
（研究分担者） 社会学科 柏谷　至　教授	電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネート支援ツールの開発	1,015,300 円 直接経費 781,000 円	研究代表者 八戸大学 石橋 修 基盤研究（Ｃ）

佐々木 てる　教授 櫛引 素夫　准教授 田中 志子　准教授 ソフトウェア情報学科 小久保　　温　准教授 坂井 雄介　准教授		間接経費 234,300 円	（平成 25 年～27 年度）
計（①＋②＋③）	平成 26 年度：13,203,000 円	14,196,300 円	12 件

④　科研費以外の研究（新規）

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成財団・期間
（研究分担者） 社会学科 柏谷　至　教授	地域に資する再生可能エネルギー事業開発をめぐる持続性学の構築	＊年度別配分額未決定	日本学術振興会 （課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業） （平成 26 年 10 月～29 年 9 月）
社会学科 佐々木てる　教授	青森地域ねぶたの現在とその可能性	393,000 円	青森学術文化振興財団 （平成 27 年度）
	2015 年度Ｇ科目助成金 科目「社会調査実習」	300,000 円	社会調査協会 （平成 27 年度）
社会学科 櫛引 素夫　准教授	北海道新幹線開業に伴う青森地域の変化の検証準備と提言事業	784,000 円	青森学術文化振興財団 （平成 27 年度）
（研究代表者） 薬学科 上田 條二　教授	界面活性剤の品質評価研究	2,200,000 円	㈱ブレストシーブ
薬学科 清川 繁人　教授	陸奥湾を回遊するイルカの生態に関する研究 （＊マスコミ関係者の調査取材可能）	480,000 円	青森学術文化振興財団 （平成 27 年度）
（研究分担者） 薬学科 鈴木 克彦　准教授	探針修飾 AFM による UGGT の立体構造解析	4,056,000 円 直接経費 3,120,000 円 間接経費 936,000 円	研究総括 伊藤幸成 （独立行政法人理化学研究所） 契約期間： 平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日
（研究代表者）	中高生対象セミナー	279,000 円	子どもゆめ基金（独立行

薬学科 大上 哲也　教授	「ミクロの世界へ」		政法人 国立青少年教育振興機構）
（研究代表者） 薬学科 大上 哲也　教授	中高生対象セミナー 「薬剤師をやってみよう」	208,000 円	子どもゆめ基金（独立行政法人 国立青少年教育振興機構）
（研究代表者） 薬学科 大上 哲也　教授	高齢・認知症対策に関する地域振興研究	203,000 円	青森学術文化振興財団
（研究代表者） 薬学科 大上 哲也　教授	認知症学会後援サテライトプログラム	200,000 円	青森学術文化振興財団
計	（配分額未決定除く）	6,500,000 円	8 件

出張講義などの実施状況

平成 27 年 7 月から 12 月現在までの出張講義申し込み状況は、以下の通りとなっています。

NO	依頼先	講義日	氏名	学科	講義テーマ
1	平内町教育委員会	07 月 22 日	藤林正雄	社会学部	健康管理を学ぶ 1 ～ストレスと上手に付き合う方法～
2	青森県自閉症協会	07 月 25 日	櫛引素夫	社会学部	自閉症の人たちが住みやすい街づくり
3	青森県総合社会教育センター 教育活動支援課	09 月 08 日	柏谷至	社会学部	地域づくり、人づくりを担う 社会教育の重要性
4	鉄道・運輸機構 青森新幹線建設局	09 月 08 日	櫛引素夫	社会学部	東北新幹線と北海道新幹線
5	独立行政法人 高齢 障害 求職者雇用支援機構 青森支部	09 月 17 日	藤林正雄	社会学部	精神障害者を地域で支える
6	青森県立青森南高等学校	09 月 18 日	上田條二	薬学部	身近な民間薬
7	あおもり若者 プロジェクトクリエイト	09 月 23 日	櫛引素夫	社会学部	まちで暮らす　地域で生きる
8	青森県立板柳高等学校	10 月 01 日	大上哲也	薬学部	認知症サポーター養成講座
9	青森県高等学校 PTA 連合会	10 月 07 日	佐々木てる	社会学部	家庭におけるキャリア教育の推進
10	青森県交通運輸産業 労働組合協議会	10 月 19 日	柏谷至	社会学部	青森県の公共交通の現状と 課題及び問題提起
11	五戸町教育委員会	10 月 26 日	久慈きみ代	社会学部	寺山修司の世界

12	平内町勤労青少年ホーム	10 月 29 日	上田條二	薬学部	身近な民間薬、漢方はなぜ効くのか
13	独立行政法人 高齢 障害 求職者雇用支援機構 青森支部	11 月 04 日	船木昭夫	社会学部	ｿｰｼｬﾙ･ｽｷﾙｽﾞ･ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ（SST）
14	むつ市保健福祉部 介護福祉課	11 月 05 日	船木昭夫	社会学部	対象者理解② 障害者の理解（身体・知的障害者）
15	むつ市保健福祉部 介護福祉課	11 月 05 日	船木昭夫	社会学部	対象者理解③ 障害者の理解（精神障害者）
16	青森市教育委員会 事務局	11 月 06 日	藤林正雄	社会学部	ストレスに対処する
17	青森県長寿社会 振興センター	11 月 10 日	上田條二	薬学部	漢方はなぜ効くのか
18	青森市教育委員会 事務局	11 月 13 日	金光兵衛	薬学部	タンパク質の異常と病気
19	沖館市民センター	11 月 26 日	櫛引素夫	社会学部	地域防災力をどう向上させるか
20	青森市教育委員会 事務局	12 月 11 日	上田條二	薬学部	漢方はなぜ効くのか？
21	青森市教育委員会 事務局	12 月 18 日	櫛引素夫	社会学部	東北新幹線と北海道新幹線
22	青森県立青森工業高等学校	12 月 22 日	藤林正雄	社会学部	人間関係で悩まないために
23	青森市教育委員会 事務局	12 月 22 日	鈴木康弘	社会学部	老化と知能の心理学
24	独立行政法人 高齢 障害 求職者雇用支援機構 青森支部	12 月 22 日	船木昭夫	社会学部	SST-よりよりコミュニケーションを身につける
25	青森県学校栄養士協議会	12 月 25 日	船木昭夫	社会学部	コミュニケーション力の向上

依頼機関 18 機関　　派遣教員 10 名　　講義開講延べ数 25 回

青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式

7 月 3 日、青森県警察本部より本学学生に対してサイバー防犯ボランティアの委嘱状が交付されました。

本学への委嘱は昨年に引き続き 2 回目となります。

サイバー防犯ボランティアとは、サイバー空間におけるサイバーパトロールや犯罪被害防止活動のための教育活動、広報啓発活動を行うものです。

ネット上には違法・有害情報が氾濫しており、これに迅速・的確に対応する必要があることから、ネット環境に慣れ、利用頻度も高い本学学生が効果的なサイバーパトロールを行い、情報収集に協力します。小中高校生は、スマートフォン等の利用に長けている反面、犯罪に巻き込まれるケースも少なくないことから、同世代の視点から被害未然防止のための教育活動を行うことでの防犯効果が期待されております。

（青森大学ホームページより）

四代目中村鴈治郎さんをお迎えして歌舞伎ワークショップを開催!!

平成２７年７月８日午後に四代目中村鴈治郎さんをお迎えして、歌舞伎ワークショップが開催されました。歌舞伎俳優中村鴈治郎さんは、五代目中村翫雀から四代目中村鴈治郎を襲名され、１月から各地で襲名披露興行の一環で、７月９日にリンクステーションホール青森において行われる松竹大歌舞伎公演（全国公立文化施設協会主催）のため、青森にご来訪されました。この機会に、青森大学において、学生や市民の皆様のために、歌舞伎ワークショップを開催いたしました。青森大学視聴覚室で行われたワークショップでは、100 人以上の市民、学生、教職員の前で、中村鴈治郎さんは、崎谷学長と対談しながら、歌舞伎の面白さや特色、演技や化粧などについて、いろいろお話しされました。

大盛況！青森大学 Jazz Festival 2015

7 月 12 日（日曜日）に「青森大学 Jazz Festival 2015」が行われ、たくさんの方々にお越しいただきました。

会場となった本学中庭ステージではオールスタンディングのお客さんと出演者の方々が一体となり大盛り上がり！！

本学はじめてのイベントでしたが、天候にも恵まれ大盛況で幕を閉じました。

第一部　青森市のアマチュアシンガー　「アンジェロ」さん

第二部　八戸市から　「WILD WIND BIG BAND」 のみなさん

第三部　日本初 女性 2 人組トロンボーンアーティスト　「THE BON BONES」さん

第四部　「マリーン」さんのステージではお客さんがオールスタンディング！！

同時開催で行われた、幸畑ヒルズの皆さんを中心に行われた「縁日」
こちらもたくさんの方々にお越しいただき大盛り上がりでした。

幸畑地域の皆さんをはじめ、たくさんの方々のご協力で開催することができました。
来年も皆さんと楽しい時間を過ごせるように頑張ります！！

（青森大学ホームページより）

平成 27 年度青大祭が開催されました！

平成 27 年 10 月 10 日（土）、11 日（日）に行われた青森大学大学祭「青大祭」が無事終了しました。テーマは「切磋琢磨　～WE‘LL DO OUR BEST～」中夜祭で行われたカラオケ大会から「りんご娘ＬＩＶＥ」、午後 7 時からのステージにもかかわらず、80 余名の来客。ノリノリのファンもいて、場内を大変盛り上げてくれました。

ねぶた囃子でにぎやかに始まった大学祭は、幸畑団地まちづくり協議会、未来創造ひらない塾、日本骨髄バンク、青森モータースクール、赤十字血液セン ター、21 あおもり産業総合支援センター、青森県保険医協会、青森県総務部防災消防課、日本原燃、環境科学技術研究所、三沢米軍のファミリー、県内の英語 講師の方々の協力も得て、地域住民をはじめ来場者に学びの場、体験の場を提供していただきました。

薬学フェスティバル

ＥＴロボコン

アキラボーイＬＩＶＥ

ご来場いただいた皆様をはじめ、ご理解とご協力いただいた地域の方々、関係者の皆様、本当にありがとうございました。

（青森大学ホームページより）

学業成績優秀学生が表彰されました

青森大学では、学業成績が特に優秀でかつ人物が優れている学生について、各学部長からの推薦により、学長が表彰する制度を昨年度から設けております。

このほど、２回目である今年度の学業優秀学生が決まり、10 月 28 日に表彰式が行われました。

表彰された学業優秀学生は、次のとおりです。

経営学部３年　木村　大翼

社会学部３年　須藤　由比

ソフトウェア情報学部３年　田中　希

薬学部３年　　古川　鈴女

薬学部５年　　神　千穂美

表彰された学生の皆さん、おめでとうございます。

これからも、もっともっと頑張っていただきたいと思います。

（青森大学ホームページより）

平成 27 年度青森大学教育研究プロジェクト

本学では、昨年度から、学長裁量経費を活用した青森大学教育研究プロジェクトを推進しています。２回目の今年度は、全学の教職員から 13 件の申請があり、審査の結果、研究推進部門 2 件、教育改革部門 6 件の計 8 件を平成２７年度の助成対象に選定しました。採択された８件の教育研究プロジェクトには総額で 204.5 万円の助成がなされる予定です。これら 8 件の教育研究プロジェクトの内容は、別表に示すとおりです。

本プロジェクトの研究代表者は、平成 27 年 12 月と平成 28 年 3 月に、青森大学付属総合研究所の研究発表会でそれぞれ中間報告及び最終報告を行うことが求められます。また、平成 28 年 5 月末日までに教育研究プロジェクトの最終報告書を提出することとなっています。

この度採択された研究推進部門 2 件及び教育改革部門 6 件のプロジェクトが、青森大学の研究活動の活性化と教育成果の向上を促し、科学研究費補助金等外部研究資金の獲得を含め、本学の教育研究が格段に進展していくことを期待しています。

平成 27 年度青森大学教育研究プロジェクト　採択研究リスト　（平成 27 年 8 月 21 日）

研究推進部門

1	プロジェクト名	ヒトの痛みを反映する動物行動指標の同定
	研究代表者	永倉　透記（薬学部）
	共同研究者	三輪　将也
	要　旨	"レセルピン誘発疼痛モデル"は線維筋痛症患者を模した動物モデルとして申請者により開発された。本プロジェクトではこのモデルにおいて自発痛様行動を検出し、それを指標とする新しい痛み評価系を確立する。

2	プロジェクト名	バキュロウイルスベクターを用いたガンワクチンの開発研究
	研究代表者	水谷　征法（薬学部）
	共同研究者	水野　憲一、小田桐望・五戸木実・白戸亜沙美・高田真里・山下功太（薬学部５年生）
	要　旨	本プロジェクトは GPCR を抗原とした Baculovirus Dual Expression System (BDES)による治療あるいは予防ガンワクチンの作製を目的としたプロジェクトである。

教育改革部門

3	プロジェクト名	対人援助スキル向上のための実践的研究～アクティブラーニングを通して～
	研究代表者	藤林　正雄（社会学部）
	共同研究者	田中　志子、宮川愛子
	要　旨	本研究では「傾聴」の実践と、その実践内容を他者と共有し振り返りを行い再度実践する。具体的には国立ハンセン病療養所松丘保養園を訪問し、入所 者等と継続的な関係を持つことで学生が関係構築を図り社会福祉的課題の発見を目指す。また、入所者等の期待に学生が対応できたかをアンケート調査から把握 し、学生にフィードバックする。

4	プロジェクト名	「青森大学発　大学生の大学生による地域のための活性化コンテスト（仮）」を通じた地域貢献と専門的能力の育成プログラムー高大連携も視野にー
	研究代表者	堀籠　崇（経営学部）
	共同研究者	岩淵　護、石塚　ゆかり、中村　和彦、松本　大吾
	要　旨	本プロジェクトは、経営学部「プロジェクト演習Ｉ」の仕組みを応用して、青森県内の高校生および大学生を参加対象者とした地域活性化コンテストについて、企画から運営に至るまで本学学生に実施させる取組である。

5	プロジェクト名	幸畑舞台プロジェクト
	研究代表者	萱森由介（事務局）
	共同研究者	村下直光、吉田彩香
	要　旨	「演劇」って、社会に何ができるのか。未来の子ども達のことを想うと、少し不安な世の中である。演劇にこれらを解決する力はない。けれども、サード・プレイスには成りうると考えている。舞台作りを通して、交流と創作を兼ね揃えた空間を作っていく。

6	プロジェクト名	モバイルクラウド時代の先端ＩＴ教育プロジェクト
	研究代表者	紅林　亘（ソフトウェア情報学部）
	共同研究者	小久保　温

	要　旨	ソフトウェア情報学科の有志学生を対象として、モバイル・アプリケーション開発やクラウドサービスの応用に関する教育プロジェクトを実施する。教員のサポートの下、学生たち自身によるアプリケーション開発を目指す。

7	プロジェクト名	遠隔地の自治体等に対する地域貢献活動の課題摘出ならびに改善案の検討
	研究代表者	櫛引　素夫（社会学部）
	共同研究者	小久保　温
	要　旨	「道の駅いまべつ」との連携事業、平内プロジェクト、中心市街地活性化事業などの地域貢献活動が、学生の意識や日常のアクティビティに及ぼす効果について検証する。また、学生と教職員を対象に、地域貢献活動に対する認識や改善要望を把握する。

8	プロジェクト名	薬学部・社会学部合同教育研究プロジェクト：第２回オレンジ文化祭（認知症の方々の作品展示会）
	研究代表者	大上　哲也（薬学部）
	共同研究者	柏谷　至、田中　志子、宮川　愛子、一井定信（薬学部研究生）、越後尚恵・中山慧哉・森祐輔（薬学部５年生）、柴田葵・筒井志帆・若佐谷佳苗（薬学部４年生）、大川史世（居宅介護支援事業所「もみじ」）、大上今日子（中央調剤薬局）
	要　旨	学生を含め広く一般の方々への認知症の啓発と地域貢献を目的に、「オレンジ文化祭～認知症の方々の作品展示会」並びに「関連教育プログラム」を企画し実施する。 【内容】作品展示、顕微鏡観察と臨床、中高生セミナー、認知症学会サテライト等（後援：認知症学会、協力：幸畑団地地区まちづくり協議会）

（青森大学ホームページより）

平成 27 年度夏季教職員研修会開催

夏季教職員研修会が、「学生の主体的な能力を引き出すためのアクティブ・ラーニングの在り方」をテーマとして、9 月 26 日に青森大学記念ホールで開催された。

基調講演として、青森県教育委員会の清野達雄指導主事が「大学教育の質的転換に期待すること：高校におけるアクティブ・ラーニングの取り組みと高大接続」の演題で講演し、青森県における高大接続の状況やアクティブ・ラーニングの活用状況などについて説明があった。続いて、NPO 法人プラットフォーム青森の米田大吉理事長が「地域とともに生きる大学のアクティブ・ラーニングに期待すること」の演題で講演し、アクティブ・ラーニングは新しい概念であるように思われがちだが、以前から行われていることで、就職活動など、多くの分野では有効であるとの説明があった。

講演後には、本学の鈴木康弘学長補佐がコーディネータとなり、本学におけるアクティブ・ラーニングの状況についての報告が、**本学におけるアクティブ・ラーニングの状況が、基礎スタンダード科目と経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部、薬学部の専門科目についてそれぞれ報告され、報告に基づいて、**ディスカッションが行われた。基調講演や各学部などからの発表に対して活発な意見交換などが行われ、有意義な研修会であった。

青森大学と国際ロータリー第２８３０地区（青森県）と教育連携

学校法人青森山田学園と国際ロータリー第 2830 地区は、平成２７年１０月１４日に「青森大学と国際ロータリー第２８３０地区（青森県）との教育連携に関する協定書」を締結した。この連携の事業の一つとして、青森大学において平成２８年度から、国際ロータリー第 2830 地区の寄付講義として「じょっぱり経済学」を開講することとなった。この試みは、本学の学生が学問としての経済学はもとより、青森地域に独特な経済・経営に関る事情を学ぶことができるようにするための講義開設で、将来、青森の経済界をリードしていく人材の育成の一助として期待されるところである

BLUE TOKYO より、特 A 米「青天の霹靂」贈呈式

青森大学、青森山田高等学校の卒業生でダンス×新体操のプロ集団として活躍する BLUE TOKYO の皆さんが青森県初の特 A 米「青天の霹靂」の PR 大使に任命されました！！

そして、この度 BLUE TOKYO の皆さんより「精神と技術を育んだ青森山田学園に青天の霹靂を贈呈したい」とのお話があり、贈呈式を行いました。

代表として、岡島理事長（代理：宍戸副本部長）、青森大学新体操部中田監督、青森山田高校男子新体操部荒川監督が青天の霹靂３０ｋｇを受け取りました。

BLUE TOKYO の皆さん、ありがとうございました！！

１月２３日・２４日の公演「BLUE VOL.4～綴～」も頑張ってください！！

（青森大学ホームページより）

平成 27 年度冬季教職員研修会開催

平成 27 年度 冬季教職員研修会が 12 月 19 日、「青森大学の未来像―地域社会とともに未来を切り拓く大学へ」をテーマとして、青森大学記念ホールで行われた。

基調講演には、文部科学省高等教育局主任大学改革官 新田正樹氏をお招きし、「高大接続改革の方向と地方私立大学への期待」を演題にご講演いただいた。

講演後には、活発な質疑応答が行われた。その後、鈴木学長補佐がコーディネータとなり、松本経営学部講師、佐藤社会学部教授、角田ソフトウェア情報学部教授、清川薬学部教授及び事務局入試課岩谷

がそれぞれの視点から本学の高大接続の方向性及び関連したアクティブ・ラーニングの活用法などについて発表した。発表内容などに関して、フロアからの意見や質問を含めた質疑応答が活発に行われ、意義深い研修会となった。

教　務　委　員　会

「労働法って何？」寸劇を通して学ぶ授業ー3 年生「就活実践演習ＩＡ」にてー

7 月 9 日（木）4 時間目に 3 年生対象の「就職活動実践演習ＩＡ」の授業において「労働法って何？」という授業が行われました。寸劇を演じる学生 は、わくわくラボの学生 4 人（青森公立大学 4 年生 3 名、青森中央学院大学 4 年 1 名）であり、就職関係で遭遇するであろう寸劇を演じて、様々な問題に対して その場で答えてくれるのが、青森労働局の石田直哉総務部長でした。（今回の企画はプラットフォームあおもりの協力によるものです。）

例えば、寸劇で、4 年生が就職活動し、内定をもらって、入社直前に会社の業績悪化を理由に、急に会社から内定を取り消したい旨の電話があったと いったということが想定されて演じられると、フロアの 3 年生のみなさんはどうしますか、といった質問が投げられました。フロアの学生たちから意見を聞いた 後で青森労働局の石田さんは「採用内定により、労働契約がすでに成立していることもあり、社会常識にかなう納得できる理由がない以上、辞めさせられること は出来ません、つまり、契約の解約は

＝解雇は無効なのです。」といったふうに的確に答えていただけるというわけです。

もう一つの寸劇はある日の女性会社員の会話です。

Ａ：先輩、元気ないですね。どうしたんですか？？

Ｂ：実は赤ちゃんができたの。

Ａ：わー、おめでとうございます。でもなんだか元気ないですね。

悩み事でもあるんですか？

Ｂ：妊娠したことを上司に相談したらね。

「辞めてもらう」っていわれて・・・・。

天の声(司会)：数日後、先輩は自主退職しました。

さてここで問題です。

妊娠したら会社を辞めてもらうといわれましたが、

これは問題ないのでしょうか？

３年生の皆さんはどうお考えでしょうか？

こういった調子で寸劇は演じられ、フロアの学生の反応から解答が求められ、数人の学生も、それは問題があると思いますと答えましたが、これに対し石田さんは、「妊娠などを理由とする退職強要、解雇などの不利益な取り扱いは法律で禁じられています。」といった明快な説明をしてくれました。

初めから労働法の講義などされたら、ひごろ眠くなってしまう学生たちも、この寸劇を通しての授業は、女性たちの寸劇のうまさや、寸劇から出てきた問題に的確に答えてくれる石田さんの明快な説明により、とてもわかりやすい授業になっていました。

ただしプラットフォームあおもりの米田理事長さんもコメントしていたように、「実際の職場では、法律に強くなったからといって終始法律を振りかざしていいわけがない、職場では生身の人間関係もあるのでバランスよく使って欲しい」といったアドバイスもみられました。石田さんも「権利だけ主張して、義務を放棄してはいけません。」などと釘をさしていましたが、全般的にとても有意義な時間となって、授業は終了しました。

青森公立大の 4 年生と青森中央学院の 4 年生の皆さん、また青森労働局の石田総務部長さん、どうも有難うございました。　（佐藤　豊）

（青森大学ホームページより）

「先輩社会人との座談会」を開催しました。

9 月 25 日、キャリアデザインにて、経営・社会・ソフトウェア情報学部の 2 年生 130 名と市役所、消防・自衛隊、保険業、小売業、IT、福祉に勤める先輩社会人の方々との座談会を行いました。

終始、和やかな雰囲気の中、「仕事のやりがい」「企業選択の決め手になったこと」や「就職活動や職業選択等の悩みや学生時代の過ごし方」の３つのテーマのもと、先輩社会人の方々からのアドバイスを受け「働くことへの印象が変わった」「まずは興味を持つことが必要だ」など前向きな気づきを多く得たよ うでした。

（青森大学ホームページより）

青森大学基礎スタンダード科目「人間と文化」・「社会と環境」表彰式

10 月８日、「人間と文化」、「社会と環境」の学修成果に対する表彰式が行われました。1 年生を対象に学部混成チームを 48 チームつくり、各チーム で学修成果を定期的に発表しています。 この度の表彰式では、成果の一つとしてまとめたポスターの中から、最優秀賞（１チーム）、優秀チーム（２チーム）が選出され、受賞者全員に賞状と記念品が 贈呈されました。

最優秀賞　　日本のノーベル賞受賞者の栄光
優秀賞　　世界からみる日本の労働
優秀賞　　差別!偏見!!水俣病!!!
文責：沼田郷

（青森大学ホームページより）

財務省 青森財務事務所所長による講演が開催されました

12 月 3 日及び 4 日、本学において青森財務事務所所長（鈴木一彦様）による「我が国財政の現状」に関する講演が行われました。

3 日は国際経済論の講義において、「我が国財政の現状と中国の経済情勢」について、4 日はキャリアデザインの講義において、「我が国財政の現状と社会保障と税の一体改革」について、それぞれご講演いただきました。

我が国の厳しい財政状況や高齢社会に対応する社会保障制度と税制の見直し等、自らの生活に直結する話題とあって学生の関心は高く、熱心に耳を傾けている姿が印象的でした。

（青森大学ホームページより）

12 月 7 日～12 月 12 日の一週間、「授業公開期間」を実施しました。

12 月 7 日からの一週間、大学のすべての授業を公開し、教員による相互の授業参観を全学で実施しました。

授業公開期間は学部や学科にかかわらず、また専門科目と基礎スタンダード科目の別にかかわらず、

すべての授業をオープンにして、本学の教職員が自由にお互いの授業を参観できるようにする取組みです。他の教員の授業を参観することを通じて自らの授業を見直し、意見を交換することでお互いの授業の改善に取組みました。また、専門分野や科目の 枠を越えて、授業の進め方や学生とのコミュニケーションの取り方のノウハウ、グループワークのテクニックなどを共有することで、大学全体の教育力をアップさせることを目指しています。授業公開期間は青森大学の教育の質を向上させるための全学的なFD(ファカルティ・デベロップメント)の取組みの一つです。

（青森大学ホームページより）

国際交流委員会

（語学部会）

今年度の大学祭（10 月 10 日、１１日）において、国際交流委員会・語学部会主催により、国際交流イベントが二日間にわたり、実施されました。

（１）“Little America on Campus” 「三沢在住アメリカ人ファミリーとの交流」: 2015 年 10 月 10 日（土）

三沢米軍基地内エドグレン高校教員や高校生を含む家族らの全面的な協力・参加を得て、国際交流イベント”Little America on Campus”を実施しました。アメリカ文化（ハロウィーンなど）の紹介、青森大学の学生や地域の人たちとの交流などを通して、意義深いイベントとなりました。また、ご協力いただいたアメリカ人家族や高校生達からは、日本の大学祭を大いに楽しむことができたとの感想を頂いています。

（２）“English World on Campus” 「ALT との交流」: 2015 年 10 月 11 日（日）

青森県の各地から ALT（外国語指導助手）や CIR（国際交流員）の方々約 14 名に集まって頂き、国際交流イベントを実施しました。エリン・コナン氏（イギリス出身、青森市国際交流員）、青森大学教員のアポスト先生（ルーマニア出身）、ケチャスン先生（カナダ出身）の 3 名には、パワーポイントを使用して、それぞれの国の紹介をして頂きました。その他の ALT、CIR の方々（アメリカ、イギリス、ロシア等）と当日の参加者との間でも楽しく、意義深い交流があり、全体として、素晴らしい国際交流イベントとすることができたと思っています。

青森大学附属図書館

平成 27 年度　図書館主催文化講演会が開催されました

平成 27 年 10 月 27 日(火)の午前 11 時から、前青森市男女参画プラザ「ガダール」館長であり、前青森市働く女性の家「アゴール」館長の白井寿美 枝氏による講演が「人生をどう生きますか―人生の先輩が伝えたいこと」というテーマで、本学 6 号館記念ホールにて行われました。

講師の白井寿美枝氏は神奈川県出身で早稲田大学を卒業後、高校教員や出版社編集長などを経て、夫の転勤とともに来青し、主婦として子育てをしながら PTA 活 動や地域活動への参加を通じて、やがて青森における働く女性や子育て、地域の問題等に積極的に取り組むグループのリーダーとして大いに活躍されました。平成 27 年 11 月には、白井氏の長年に渡る、青森県における地域貢献活動の実績が認められて、『平成 29 年度青森県いきいき男女共同参画社会づくり表彰功労賞』を受賞されています。

講演では、講師の白井氏自身の学生時代から就職、転職、結婚、ボランティア、社会活動についての半生を様々な写真映像をスクリーンに映写しながら、時折ユー モアを交えた聴衆を飽きさせない軽妙な話しぶりにより、当日後援会に出席した全学部の 1 年生と教職員は終始和やかな雰囲気に包まれていました。

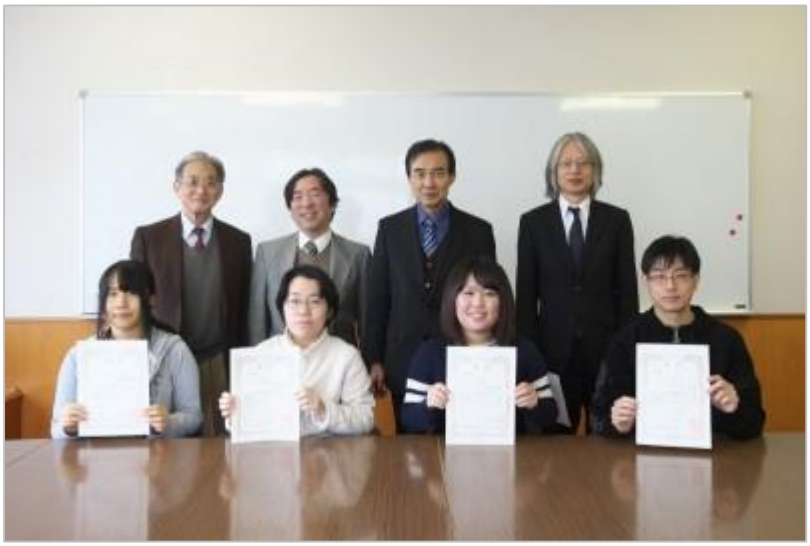
（青森大学ホームページより）

第 21 回読書感想文コンクールの入賞者発表と表彰式

毎年恒例となっている図書館主催の読書感想文コンクールは、本年度は 200 名の応募作の中から、図書員会で優秀作品を厳正審議の結果、下記 4 名の感想文が学長賞受賞に選出されました。

記

金賞：　ソフトウェア情報学部　1 年　舘田　真純
　　レイチェル・カーソン著『センスオブワンダー』
銀賞：　該当者なし
銅賞：　社会学部　3 年　小笠原　悠
　　太宰治著『津軽』
銅賞：　社会学部　3 年　木村　菜摘
　　寺山修司著『書を捨てよ、街へ出でよ』
銅賞：　社会学部　3 年　平田　一生
　　リチャード・ブレストン著『ホット・ゾーン(上・下)』



読書感想文コンクール優秀者の表彰式は 12 月 7 日(月)の昼休みに 7 号館第 7 会議室で行われ、学長より各賞の賞状が上記優秀者へ授与されました。

（青森大学ホームページより）

就　職　課

第 1 回「就活キックオフ」

12 月 11 日、去年に引き続き、今年も「就活キックオフ」がスタートしました！

「就活キックオフ」とは…

青森大学の 3 年生を対象とした、学生の意欲を高め就活にまつわるノウハウを習得するイベントです。

ＮＰＯ法人プラットフォームあおもりの協力を得て開催しています。

12 月 11 日のプログラムは「企業ガイダンス」です。青森県内から 10 社の企業の方に参加して頂きました。会社の PR や社内の雰囲気。また、これまで学生を採用する際に重視したことなどリアルな意見を聞くことができました。

企業の方からお話しを聞いている最中、コートを着たままの学生さんを何人か見かけました。
面接等では、必ず会社に入る前にコートを脱いで入るのがマナーです。「知っていたらできること。でも知らないからやらないのは勿体ない。」就活の際よく言われました。

今日の「企業ガイダンス」で就活に関する新たな知識や情報が手に入ったと思います。本番に向けてこれから頑張っていきましょう！

（facebook 青森大学サテライトより）

第 2 回「就活キックオフ」が行われました

12 月 17 日、先週に引き続いて３年生対象の第 2 回「就活キックオフ」が行われました。今回のテーマは、「グループ内定報告会」です。

４年生が、就活から内定が決まるまでのリアルな体験をレジュメに沿って報告。就職解禁前に参加した学内企業説明会の大切さや、試験対策としてやるべき事など、就活に大切なお話が、たくさん聞けたと思います。４年生にとっても、複数の３年生を相手に、何をどのように伝えるべきか考え、どんな質問に対しても適切な対応ができるかが試される場でもあります。

実際に経験したからこそ言える面接の失敗談や、対策を講じていて良かった成功談も報告してくれました。小さな情報も、３年生にとっては、大きく重要な財産ですね。

次回の、「就活キックオフ」は平成 28 年の 1 月です。

（facebook 青森大学サテライトより）

学　生　課

女子剣道部優勝！

平成 27 年度東北地区大学体育大会（剣道の部）が、7 月 5 日（日）に秋田県立武道館で開催されました。本学は女子団体で５年ぶり５回目の優勝を飾りました。

女子団体は、一回戦シードで迎えた二回戦の相手は地元秋田の聖霊女子短期大学。先鋒山内 笑舞（経営 1 年・宮城県柴田高出身）、中堅佐々木 奈洋（社会 3 年・岩手県宮古高出身）、大将篠塚　日静（経営 3 年・東奥義塾高出身）と三人が引き分けで 0－0 のまま勝負は代表戦に持ち込まれ、大将の篠塚が代表戦で見事、面を決め勝利しました。

準決勝の相手は、今年度の東北女子学生王者山村を擁する福島大学。本学もメンバーを入れ替えて臨み、先鋒山内は引き分け、中堅篠塚日が山村選手と 引き分け、大将篠塚 光（経営 4 年・東奥義塾高出身）も引き分けで、またもや勝負は代表戦に持ち込まれます。福島大学の代表は、やはり今年の王者山村選手、対して本学は主将篠 塚光で勝負をかけ、延長 40 分を超える激戦を得意の面で制し決勝進出を決めました。

決勝の相手は、過去最多１０回の優勝を誇る東北学院大学。先鋒山内は引き分け、中堅篠塚日が面を決め一本勝、大将篠塚光が引き分けて、1－0 で勝 利。5 年ぶり 5 回目の優勝となりました。勝因はメンバー全員が青森大学のプライドを持ち攻め抜き、思いを繋ぎ失点をゼロで抑えたことです。

男子団体は全日本学生東北代表常連の山形大学と対戦し、先鋒佐藤 浩一（社会１年・青森高出身）が二本勝で幸先よくスタート。次鋒佐藤 崚平（経営１年・青森商業高出身）、五将石戸 将太（経営１年・東奥義塾高出身）と引き分けで迎えた中堅向谷地 史和（経営２年・三沢高出身）が中盤小手を奪われ一本負け、三将三上 克弥（経営２年・五所川原第一高出身）、副将武久 雄哉（ソフト２年・東奥義塾高出身）が山形大学のポイントゲッターと引き分けでポイントを与えず、勝数 1－1（本数 2－1）の僅差のリードで迎えた大将小 笠原 亮（経営３年・北海道森高出身）戦で終了間際に痛恨の胴を一本取られ、反撃するも試合終了の合図で 2－1 と逆転負けをしました。

本学は１，２年生主体の若いメンバーでしたが、強豪校にあと一歩のところまで攻めこみ健闘しました。男女共に秋の全日本学生剣道優勝大会東北予選に向け稽古に励み、剣の理法に基づく人間形成を目指してまいります。

（戦評：剣道部監督足澤 一成）

（青森大学ホームページより）

青森大学フットサルチーム東北大会へ！！

7 月 12 日（日）に開催された AiDEM CAP 2015 青森大会で、8 チームが参加する中、青森大学チーム（顧問：櫛引准教授）が見事準優勝しました。

予選グループ A をわずか 1 失点で圧倒し、決勝トーナメントに進出、迎えた決勝トーナメントでは、不運も重なり敗退したものの準優勝となり、上位 2 チームのみが進出できる北海道・東北大会への出場が決定しました。

10 月に開催される北海道・東北大会での活躍が期待されます。

（青森大学ホームページより）

おめでとう！14 連覇！！

新潟市で開催された第 67 回全日本学生新体操選手権大会において、本学新体操部が団体戦で予選をトップで通過。翌日の決勝では、何物も寄せ付けない素晴らしい演技で優勝いたしました。

『14 年連続 14 度目の日本一』に輝き、前人未到の記録をさらに伸ばしました。

個人総合では､永井直也君(経営 2 年)が 0.025 差という僅差で惜しくも優勝には届きませんでしたが、見事準優勝に輝きました。

男子新体操部員の皆さん、中田吉光監督、そして関係者の皆さま、本当におめでとうございます。

（青森大学ホームページより）

新体操部が青森県知事を表敬訪問しました

９月１１日、第６７回全日本学生新体操選手権大会において、見事団体１４連覇を果たした青森大学新体操部が知事を表敬訪問しました。

はじめに選手紹介、続いて中田監督より試合結果の報告があり、三村知事は選手一人一人に新体操の身振り手振りを交えながら試合の感想や今後の抱負等を質問しました。

最後に三村知事より激励の言葉をいただき、選手は笑顔で応えました。三村知事、並びに関係者の皆様、ありがとうございました。一層の高みを目指す青森大学新体操部のますますの活躍を期待します！！

（青森大学ホームページより）

青森県秋季大会　入賞者多数！！

9 月 18 日（金）から 20 日（日）、青森県総合運動公園陸上競技場にて青森県秋季陸上競技選手権大会が開催されました。シーズン後半戦の始まりです。

本大会は、個人種目はもちろん、特にリレー種目に力を入れ、各学年ごとに 400m リレー、1600m リレーのチームを結成して試合に臨みました。それぞれのチームが工夫した練習に取組み、目標を成し遂げようとする姿はとても美しいものでした。

残り試合はあと 1 試合となりました。最後まで全力で戦っていきたいと思いますので、皆様、ご声援よろしくお願いいたします。

＜優勝者・入賞者一覧＞
〇男子 100ｍ
渋谷　直寿（社会学部 4 年）11 秒 03（4 位）
梶谷　渓太（経営学部 1 年）11 秒 10（6 位）
〇女子 100m
福士　紗恵（社会学部 4 年）13 秒 11（6 位）
〇男子 200m
川村　一真（社会学部 3 年）22 秒 16（2 位）
〇女子 5000mW
田中　聡珠（薬学部 1 年）28 分 32 秒 09（2 位）
〇男子砲丸投げ
田澤　凌亮（経営学部 3 年）14m31（1 位）
〇男子ハンマー投げ
工藤　和也（社会学部 2 年）31m07（6 位）
〇男子 4×100mR
青森大学 A　43 秒 69（4 位）
榊　孝太　　（社会学部 3 年）　第 1 走者
川村　一真　（社会学部 3 年）　第 2 走者
池田　祐希　（社会学部 3 年）　第 3 走者
久保　瑠偉　（経営学部 3 年）　第 4 走者
青森大学 B　45 秒 16（7 位）
舛沢　将太　（社会学部 2 年）　第 1 走者
葛西　優歩　（社会学部 2 年）　第 2 走者
新山　祐介　（経営学部 2 年）　第 3 走者
小野　隆誠　（社会学部 2 年）　第 4 走者

（青森大学ホームページより）

全日本新体操選手権大会優勝！！

１１月６日から８日、岐阜県で開催された第６８回全日本新体操選手権大会において青森大学が団体優勝（２年連続１１回目）、永井直也君が個人総合４位、種目別クラブ２位、リング３位入賞を果たしました。

さらに、青森山田高校も団体４位入賞と上位３チームの大学生に次ぐ高校１位に輝きました。

青森大学新体操部、青森山田高校男子新体操部の皆さん、おめでとうございます！！

（青森大学ホームページより）

ミス・ユニバース・ジャパン青森大会　グランプリ受賞！！

11 月 23 日、ミス・ユニバース・ジャパン青森大会で、経営学部 2 年三潟愛子さんが、グランプリに輝きました！！

三潟さんは平成 28 年 3 月、都内で開かれる日本代表選考会に本県代表として出場します。

（青森大学ホームページより）

地域貢献センター

◎『道の駅いまべつ』連携協定覚書交換式

青森大学は、北海道新幹線・奥津軽いまべつ駅に併設されている今別町の「道の駅いまべつ」と連携して、学生の視点を生かした道の駅の活動支援事業をスタートさせた。10 月 6 日、連携を仲介した国土交通省青森河川国道事務所を交え、三者による連携協定の覚書交換式を行った。

覚書交換式では、青森河川国道事務所の石塚宗司事務所長が連携の経緯を紹介した後、青森大学の崎谷康文学長が「地域とともに生きる大学として、地域活性化のお役に立ちたい」と抱負を語り、同道の駅の山田基駅長が「課題や問題点、新幹線の活用、広域的 な部分まで検証いただいて、提言をいただきたい」と期待を述べた。

青森大学と道の駅いまべつの連携は、国土交通省が全国的に仲介・展開しているプログラムの一環として実現した。プログラムは、学生が道の駅の商品開発や運営への提言を行う「連携企画型」と、学生

が道の駅でインターンシップを体験する「就労体験型」の 2 種類があり、青森大学の社会学部 4 年・木村伊都流君が平成 27 年 8 月、「道の駅なみおか」で就労体験に臨んだ。

道の駅いまべつについて、青森大学は 4 年生 2 人が前期の「社会学演習Ⅴ」の一環として調査を行った。後期の授業で、木村君を交えてさらに調査・研究を進め、活性化策や広域的な拠点としての活動プランを検討した 。また、青森大学は来年度以降、地域貢献系のカリキュラムの中で、道の駅いまべつとの連携を深める方策を進めていく。

◎【ひらないの語り場】スタート

平内町と青森大学、青い森鉄道の実行委員会が取り組んでいる「若者ネットワークづくり」の平成 27 年度事業がスタートした。その皮切りとして 7 月 17 日（金）夕、町の現状や課題について自由に意見を交わす「ひらないのカタリバ」を町役場会議室で開催した。

実行委員や町内の皆さんに加えて、青森大学生、さらに青森市や藤崎町からも参加者があり、「コミュニケーションをもっと取るべき」「発信力が必要」「役場にカフェ（コーナー）をつくり交流の場にしては」といった意見が出た。

2 時間以上にわたる議論を通じて「まちのシンボル・ホタテや、ホタテを生産する人たちに焦点を当てては」という意見と、「ホタテから脱却してツバキやコスプレに意識を向けては」といった意見が出された。

第 2 回の語り場は 8 月 11 日に開かれ、平成 27 年 1 月の「銘酒とスイーツの夕べ」にブースを出展した、東京都の企画会社「ルミナージュ」の代表・小原葉月さんが町の活性化策について提案、それを元に意見交換した。

「居場所」「立ち寄り所」といった言葉が軸になり、「平内町は津軽と南部を結ぶルート上にあり、交通量が多いのに、立ち寄れる場所がない。知り合いに聞かれて、コンビニエンスストアを勧めたことがある」「食べてくつろげる場所がほしい」などの声が上がった。また「地元の景観を見直そう」「観光地だけではなくオススメのお店など『わがまちマップ』を作りたい」という意見も出た。

終了後も「小さなことでもいいから、出た意見を着実に実行することが肝心」という趣旨の投稿がネットに相次いだ。

◎大学生観光まちづくりコンテストに参加

青森県を舞台に、観光とまちづくりを融合させたプランを大学生が競う「大学生観光まちづくりコンテスト 2015」の本選が 9 月 14 日、青森市のワ・ラッセで開かれた。青森大学からは２チームが出場したほか、３チームがポスターセッションで独自のアイデアを披露、熱のこもったプレゼンテーションを繰り広げた。惜しくも入賞は逃したが、学生たちは他大学の学生と交流しながら、自分たちのプランを振り返るとともに、多くの収穫を手にした様子だった。

▼本選出場＝櫛田ゼミナール「しられざる　うまいものでおもてなし」、チーム FUN＋「弘前　～鬼巡りパワーマラソン～」

▼ポスターセッション＝青森ルネサンス「食と鉄道の町　今別」、西目屋村活性化プロジェクト「全ては申し込みから始まった　～西目屋村１泊２日の旅～」、沼田ゼミ「ホタテの町の原点と今を見つめる旅」

◎「ひらないお月見」を開催

青森大学と平内町、青い森鉄道が連携して初めて企画した「ひらないお月見」が、中秋の名月の 9 月 27 日夕、平内町の浅所海岸と旧浅所小学校で開かれた。

お月見は、平内町の魅力を発掘するとともに、町内外の交流を活発化させる「若者ネットワークづくり」事業の一環として企画された。会場には町内や青森市、東北町、弘前市、さらに岩手県などから 30

人ほどが参加し、青森大学へ台湾やモンゴルから留学中の学生たちも駆けつけた。

午後５時半すぎ、あかね色の雲間から丸い月が顔を出すと、「ほぉー」という歓声が上がり、刻々と暗さを増す夜空を昇っていくまばゆい月の姿に、参加者らはカメラやスマートフォンを構えながら見入っていた。また、十五夜や星空の解説も行われた。

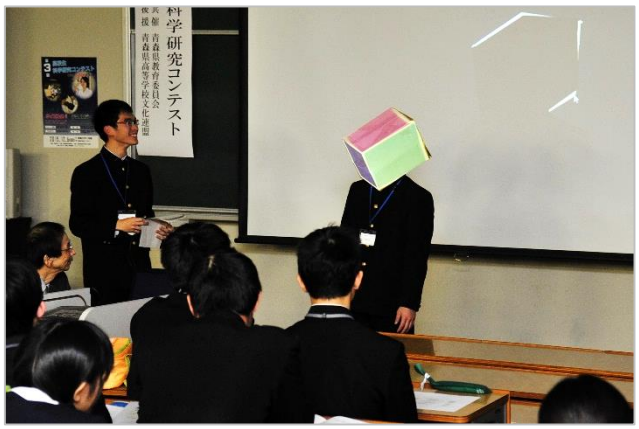
お月見の後は、旧浅所小学校体育館で、清川繁人学長補佐が平内町内で撮影した美しい画像を紹介しながら、地元の魅力にもっと目を向けるべきだと強調した。

『第 3 回高校生科学研究コンテスト』が開催されました

第 3 回高校生科学研究コンテスト（青森大学主催、青森県教育委員会共催、青森県高等学校文化連盟後援）が 12 月 6 日（日）に本学で開催されました。

県内 9 校から 137 名の生徒が 14 名の引率教員とともに参加しました。

当日は、前日からの降雪の影響で学内でも除雪が必要な状況でしたが実行委員の懸命な除雪作業で、なんとか無事生徒を迎えることができました。コンテストは 10 時に始まり、今回初めて二つの会場を使ったパラレルセッションで行われました。



審査結果は以下のようになりました。

最優秀賞：青森南高校「青く光る皆既月食の謎」
優秀賞：八戸高校「メロディーパイプにおける音の発生について」
　　三本木高校「プラズマの植物栽培への利用」
ブルーリボン賞：八戸工業高校「青森県産色素増感型太陽電池の分光特性」
　　五所川原高校「カビのキモチ　～コトバノチカラ～」
光言賞：三本木高校「学校の PC でも製作できる！？プロジェクションマッピング」
　　八戸高校「合成繊維の染色」

今回から新しく導入したブルーリボン賞は、特にアイデアや着眼点に優れた研究に対し、また光言賞は、特に表現力豊かで説得力のあるプレゼンテーションを行った研究に対し贈呈されます。

最優秀賞や優秀賞は、長年研究指導に当たられている先生から手ほどきを受け、また予算的にもゆとりのあるチームが受賞しがちですが、そうした環境になかったり、あるいは新たに参加したチームが獲得することはなかなか大変なことです。そこで、本コンテストではいわゆる常勝校以外の学校にも入賞のチャンスが得ら れることを目的に、これら二つの賞を第 3 回コンテストから導入しました。

審査には、ソフトウェア情報学部と薬学部の教員があたり、審査委員全員が 事前に担当会場で発表予定のすべての要旨に目を通し、質問点をあらかじめ整理した上で当日の審査に臨みました。また「学生が中心」との本学の教育方針のもと、司会、タイムキーパー、受付、審査結果集計補助などの業務に両学部の学生が積極的に参加しました。

コンテスト終了後、今回ともに 40 人ほどの生徒が参加した五所川原高校の伊藤先生と三本木高校の

平川先生から「来年もぜひ参加したい」とのメッセージをいただきました。

今回は参加賞として東急ハンズ特製のグリーンの不織布でパッケージした試験管・コルクセットを参加者全員にプレゼントしました。参加生徒には良い思い出にな ることでしょう。ある大学職員からは「試験管、ナイスチョイス！ですね。元自然科学部としては血が騒ぎます。すっかり田舎の人なので、今はTOKYU HANDSのラッピングを見ただけでちょっと得した気分です」とのコメントもありました。

（青森大学ホームページより）

第 3 回高校生科学研究コンテスト講評

高校生科学研究コンテスト実行委員会
委員長　上田 條二
幹　事　堀端 孝俊

第3回高校生科学研究コンテスト（青森大学主催、青森県教育委員会共催、青森県高等学校文化連盟後援）は12月6日（日）に本学で開催され、県内9校から137名の生徒が14名の引率教員とともに参加しました。昨年の7校94名に対し大幅な増加となりました。参加校のなかには40名もの生徒が発表を行った高校が2校あり、これらの学校をはじめとし本県における自然科学教育への熱意の高さには頭の下がる思いがいたしました。当日は、前日からの降雪の影響で学内でも除雪が必要な状況でしたが、実行委員の懸命な除雪作業でなんとか無事生徒たちを迎えることができました。今回はサイエンス部門とテクノロジー部門合わせて30件の応募があり、これだけの発表とその後の審査を 1 日で行うことは困難と判断し、始めて二つの会場を使うパラレルセッションとして実施しました。A会場は、主に物理、天文、数学、工学分野の発表を行いソフトウェア情報学部の教員が審査を担当し、B会場では、主に生物、化学、地学、生活・食品分野の発表を薬学部の教員が審査しました。審査委員に選ばれた先生方は、全員が事前に担当会場で発表予定のすべての発表要旨に目を通し、質問点をあらかじめ整理した上で審査に臨みました。

審査の結果、両会場を通しての最優秀賞には青森南高等学校の「青く光る皆既月食の謎」が輝きました。仮説を立証するために統計的手法を用いて定量化を行っており学術的な方法論を正しく用いていること、フィルムのカメラとデジタルカメラの色に対する感度特性を測定しターコイズフリンジが見られるようになったのはカメラの感度特性の違いのためであるという仮説を裏付ける有力な手掛かりを得たこと、原因が不明の現象に対する仮説の立て方が面白い、スペクトルに関するスライドなどアピアランスをよく考慮してデザインされている、着眼点が秀逸、など多くの点で高い評価を受けました。

優秀賞は各会場 1 件ずつの発表が選ばれました。A 会場では八戸高等学校の「メロディーパイプにおける音の発生について」に贈呈されました。数理モデルに基づいた検討や考察を行っており学術的な方法論を正しく用いている点が秀逸、実験方法を工夫しながらデータを取りその各々について分析している、考察では 2 つのモデルを考え式を作り実験値との比較から結論を導出している、質問への回答が的を射ている、などの評価を受けました。B 会場では三本木高等学校の「プラズマの植物栽培への利用」に贈呈されました。継続研究で新規・独創性を示しにくい中でしっかりしたデータや動画などを試みたプレゼンテーションは非常に分かりやすくインパクトがあった、装置の写真や模式図が示されており実

験方法などが非常に理解しやすい発表だった、質問に対してもスライドを用いて対応していた点も非常に良かった、アイデアの独創性や材料が適切であるところを説明していた、などの点が高く評価されました。

今回から導入された優れた着眼点を称えるブルーリボン賞には各会場１件ずつの発表が選ばれました。A 会場では、八戸工業高等学校の「青森県産色素増感型太陽電池の分光特性」が選ばれました。環境に優しい再生可能エネルギーの技術をテーマとして取り上げ科学的に解明しようと取り組んだこと、身近な素材、地元の素材を生かす工夫をしたこと、などが評価されました。B 会場では、五所川原高等学校の「カビのキモチ　～コトバノチカラ～」が選ばれました。微生物の増殖と声や色の関係について調べようとしたアイデアがすばらしい、言葉の抑揚の高さを実際にプレゼンテーションで表現しようとした発想が独特である、などの評価を受けました。優れたプレゼンテーションを称える光言賞にも各会場１件ずつの発表が選ばれました。A 会場では、三本木高等学校の「学校の PC でも製作できる！？プロジェクションマッピング」が選ばれました。仲間の頭に箱をかぶせてプロジェクションを行うという印象的なプレゼンテーションの方法を工夫したこと、独自の発想で非常にユニークな応用を見出し実演できるレベルで完成していて素晴らしい、などの意見がありました。B 会場では、八戸高等学校の「合成繊維の染色」が選ばれました。質疑応答がしっかりしている、前を向いて真摯に対応しようとする姿勢が評価できる、一人で身の回りの疑問を立案、出来る範囲で結果に結びつけプレゼンしようとする意欲に好感が持てます、B 会場すべての発表の中で一番堂々と発表していた、などの評価でした。最優秀賞や優秀賞は、長年研究指導に当たられている先生から手ほどきを受け、また予算的にもゆとりのあるチームが受賞しがちですが、そうした環境になかったり、あるいは新たに参加したチームが獲得することはなかなか大変なことです。そこで、本コンテストではいわゆる常勝校以外の学校にも入賞のチャンスが得られることを目的に今回からこれら二つの賞を導入しました。

今回受賞にはいたりませんでしたが、青森南高等学校の「飛行機雲の研究 ～出現する条件と形～」も高い評価を受けた発表でした。データの解釈において理論的見地から仮説を提示して議論しており学術的な方法論を正しく用いている点が評価できる、との意見がありました。また、八戸北高等学校の「八戸市から産出した縄文土器の胎土分析」も優秀賞に比肩する高い評価を受けました。継続研究で新規・独創性のインパクトを示しにくい反面長期研究による説得力が前面に出ているので素晴らしい、との評価でした。

審査項目は、昨年同様「テーマの独創性」、「調査・探求の方法」、「情報収集の努力度」、「研究の達成度」、「プレゼンテーション」の５項目について両会場合わせて9名の審査員で審査を行いました。採点結果は、審査員によるコメントと全体の中における自らの評価の位置づけが分かるように表現したレーダーチャートを添えて発表者に返却します。この採点結果は、今後の研究の指針として大変役立っているとのお言葉を参加校の先生方からいただいております。コンテストに参加した生徒の皆さんには、さらなる高嶺を目指して研究に励んで頂きたいと思います。研究は、そのテーマに対して先人は何を考え、何を目指し、どこまで明らかにし、何が未解決なのか、すなわちその分野の歴史と現状を知ることに始まります。そのことによって自らテーマを設定し、自らの力で探求し、そして今までにない新たな知見に到達することが求められているのです。研究の内容をさらに深め、発表の練習を繰り返し、来年の新たな舞台で皆さんのさらに成長した姿を見せて頂けることを心から期待しています。

学習支援センター

学習支援センターでは、6月初めに開いた運営委員会で次の7事業を確定し、すぐ後に開いたセンター会議において各事業の担当を決め、活動を進めている。今年度は、学習相談窓口の開設回数は少ないものの、IR推進活動や、就職課と共同した就活に関するミニセミナーと女子Cafeを、昨年度より継続あるいは強化して実施している。

［学習相談窓口の開設］

学習相談窓口を、5月下旬に2回開設している。この中で、キャリア開発に関する1件の相談が行われた。

［学修時間・学修行動調査の実施（IR推進室）］

9月に平成27年度前期の学修時間・学修行動調査を実施し、回答の集計・分析作業を行っている。また、平成27年度後期に関しては、平成28年1月に調査を実施する計画を進めている。

［地域貢献アンケートの実施］

10月から11月にかけて、地域貢献センターと共同で、「地域貢献アンケート」を実施した。対象は、全教職員と全学部全学年の学生（ただし、実習のため薬学部5年生には未実施）である。このうち、学修支援センターは学生向けのアンケート実施を担当し、地域貢献活動の経験や興味・関心等についての回答を得た。現在は、集められた回答の集計・分析を行っているところである。

［ミニセミナーの実施］

主に学生同士の交流と知識伝達を目的としたミニセミナーに関して、今年度も就職委員会と共同での就職内定を得た4年生が講師となったミニセミナーを6回実施した。アンケート結果によると、参加学生からは好評を得ており、実施時間を工夫する等、今後も参加学生数を増やすことに取組みたい。

- ○ 第 1 回(10 月 29 日)　「福祉施設への就職活動」、社会学部 4 年 中舘陽香さん
- ○ 第 2 回(11 月 5 日)　「一般企業への就職活動」、社会学部 4 年 成田絢香さん
- ○ 第 3 回(11 月 12 日)　「就職活動の進め方 －福祉関係の病院への就職－」、社会学部 4 年 舘竣哉さん
- ○ 第 4 回(11 月 26 日)　「東京における IT 企業への就活」、ソフトウェア情報学部 4 年 石川佳実さん
- ○ 第 5 回(12 月 3 日)　「食品関係企業への就活」、社会学部 4 年 斎藤健太さん
- ○ 第 6 回(12 月 10 日)　「福祉施設への就活」、社会学部 4 年 阿部悠里さん

［ちょこボラCafeの実施］

地域貢献センターと共同で、ボランティア活動に携わる学内外の方々を講師に、「ちょこボラCafe」をほぼ毎月実施している。

［女子Cafeの開催］

NPO法人「プラットフォームあおもり」との共同主催、就職委員会と共催して、7月24日（金）夕方に「集いのスペース622」において、平成27年度第1回「女子Cafe」を開催した。当日は、22名の女子学生が参加した。

マロミ化粧品店の鳴海吉英氏をお招きし、就活・実習・インターンシップ等の学外活動に役立つよう、メイクデモンストレーションとワーク、およびメイクお悩みカフェを行った。

実施後のアンケートでは、すべての学生が「とても良い」又は「良い」と回答し、今後の女子力UPの講座にも参加したいとの希望が寄せられる等、好評であった。

平成 27 年度　第 4 回「ちょこボラ cafe」

７月１７日（金）に今年度第４回目の「ちょこボラ cafe」が開催されました。

今回のグストスピーカーは青森大学社会学部３年生の宮野結さんでした。

テー マは「日本の伝統楽器・お琴に親しむ」。宮野さんは幼少期からお琴を練習していて現在は海外に派遣されるなど、琴演奏者として活躍しています。今回は、昨年のヨーロッパ演奏旅行の様子を聞いたり、お琴の演奏を聴いたり、また実際に参加者がお琴を奏でることもできたりと、日常では味わえない優雅な「日本の美」に触れることができました。

初めて、お琴に触れてみる参加者たち。

楽譜を見ながら曲にチャレンジしてみた結果、なんとか弾けました。

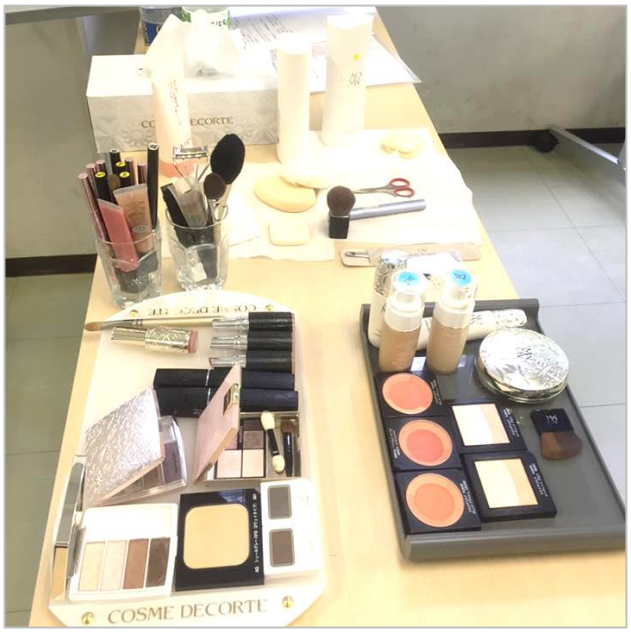
お琴を前にして、参加者全員で記念撮影。

（青森大学ホームページより）

メイクお悩みカフェトーーク！！

7 月 24 日、メイクお悩みカフェトーーク！！

グイグイ女子力成長中



（facebook 青森大学サテライトより）

平成 27 年度 第 5 回「ちょこボラ cafe」

９月２５日（金）に今年度第５回目の「ちょこボラ cafe」が開催されました。

今回のゲストスピーカーは社会学部２年生・坂本風磨さん、社会学部３年生・工藤昴さん、社会学部１年生・工藤大輝さんでした。

テー マは「『大学生観光まちづくりコンテスト青森ステージ』での発表を通して、地域が抱える課題を一緒に考えてみたい！！」でした。坂本さんたちは９月１４日 に開催された「大学生観光まちづくりコンテスト青森ステージ」に参加しました。このコンテストは大学生が考えた「地域の魅力を生かした観光プラン」を競い 合うもので、青森ステージのほか山梨、大阪、大分、留学生部門があったそうです。

「ちょこボラ cafe」では発表に使った資料をパワーポイントで紹介し、 その後のワークショップでは「青森の魅力」や参加者の中に台湾からの留学生が多かったことから、「台湾の魅力」なども話し合われ、異文化を知る良い機会になりました。

「大学生観光まちづくりコンテスト青森ステージ」での発表内容を紹介。

「青森の魅力」と「台湾の魅力」を話しあう参加者たちは意外な発見に驚くことしきり。

「ちょこボラ cafe」ゲストスピーカーに贈呈される感謝状を手に記念写真、パチリ。

（青森大学ホームページより）

平成 27 年度 第 6 回「ちょこボラ cafe」

１０月３０日（金）に今年度第６回目の「ちょこボラ cafe」が開催されました。

今回のゲストスピーカーは経営学部３年生・相馬正宗さんでした。

テーマは「メンタルフレンドやＢＢＳ活動紹介を通して児童の健全育成を一緒に考えてみたい！！」

活動紹介をする相馬さん。

いろいろな意見を出し合いまとめる作業をした。

「ちょこボラ cafe」ゲストスピーカーに贈呈される感謝状を手に記念写真、パチリ。

（青森大学ホームページより）

平成 27 年度 第 7 回「ちょこボラ cafe」

11 月 27 日（金）に今年度第 7 回目の「ちょこボラ cafe」が開催されました。

今回のゲストスピーカーは青森山田高等学校留学生のバテビレク・ガンツェツェグさんとバヤラア・オテゴンチメグさんでした。

テーマは「モンゴル文化に触れてみましょう」。モンゴル語での自己紹介に参加者は一気にモンゴルの世界に引き込まれ、文化紹介後に行われた料理講習会ではモンゴル家庭料理を味わうことができました。

「モンゴル文化」を紹介するガンツェツェグさんとオテゴンチメグさん。

「モンゴル文化」紹介に聞き入る参加者の皆さん。

モンゴル家庭料理「ホーショール」作りを体験。なかなか上手く包めず苦戦する者あり、難なく包める者ありで調理室は大賑わい。

モンゴル家庭料理「ホーショール」

試食タイム、「美味しい」の声が飛び交う。

「ちょこボラ cafe」ゲストスピーカーに贈呈される感謝状を手に記念写真、パチリ。

（青森大学ホームページより）

［ 学生によるミニセミナー、就活内定者の報告会の実施　］

昨年に引き続き、4 年生で内定の取れている学生に協力してもらい毎週木曜日の 5 時間目に学習支援センターと就職委員会の共催により、ミニセミナーを実施しました。経営、社会、ソフトウェア情報の 3 学部の 4 年生が講師を務め、福祉施設や一般企業、IT 企業など就活体験や心構えなどを話してくれました。毎回 4 年生の話は非常に説得力のある話が多かったですが、課題は集客で、現行の木曜日の 5 時間目でいいかどうかや、いかに多くの学生に参加してもらうかなどの課題が残ります。

第 1 回 10 月 29 日（木）5 時間目　「福祉施設への就職」社会学科 4 年中館陽香さん
第 2 回 11 月 5 日（木）5 時間目　「一般企業への就職」社会学科 4 年成田絢香さん
第 3 回 11 月 12 日（木）5 時限　「病院関係への就職」社会学科 4 年舘峻哉さん
11 月 19 日（木）5 時限　第一回グループ内定報告会のためなし。
第 4 回 11 月 26 日（木）5 時限　「IT 企業への就職」ソフト情報学科石川佳実さん
第 5 回 12 月 3 日（木）5 時限　「一般企業（食品関係）への就職」社会学科斎藤健太さん
第 6 回 12 月 10 日（木）5 時間　「福祉施設へ就職」の社会学科阿部悠里さん

（担当：佐藤豊）

国際教育センター

台湾・修平科技大学からの短期留学生受入れ式

昨年に続き、今年も台湾の修平科技大学より、６名の短期留学生がやってきました。

留学生の皆さんはこれから一年間、経営学部で学びます。

9 月 16 日に行われた受入れ式では、崎谷学長より一人ひとりに短期留学生受入許可書が手渡されました。

学長は挨拶で「皆さんの先輩は一年を通して様々な行事に参加して色々なことを学んだ。

皆さんも先輩に負けないくらい、たくさんのことを学んで、修平科技大学に持ち帰ってほしい」と話しました。

続いて修平科技大学の林先生、陳先生よりご挨拶をいただき、本大学側の教員を紹介。

最後に留学生一人ひとりが日本語で抱負を述べて受入れ式を終了しました。

留学生の皆さん、四季の情緒あふれる青森での生活を楽しみながら、留学生活頑張ってください！！

（青森大学ホームページより）

留学生歓迎会

9 月 28 日国際教育センターにおいて留学生交流会が行われました。今回は 9 月 15 日に台湾から来日し、9 月 16 日短期留学生受け入れ式を終えたばかりの留学生 6 名の歓迎会を兼ねたピザパーティー。日本人学生の一人がアルバイトをするイタリア料理店の本格的な窯焼きピザを囲んで、自己紹介やゲームをしながら楽しいひと時を過ごしました。

最初はかなり緊張気味だった留学生たちも、いつの間にか笑い声や笑顔が溢れていました。まだまだ日本語がスムーズに出てこず、身振り手振りを使って 必死に台湾のゲームのやり方を説明する留学生と、その声に耳を傾け、ひと言ひと言を繋ぎ合わせて懸命に理解しようとする日本人学生の姿が印象的でした。罰ゲームのはずだった歌も、最後はみんなで声を合わせて歌っていました。

短期留学生たちにとっては、長いようであっという間の１年。異文化の壁を乗り越え、青森大学でかけがえのない友達づくり、思い出づくりをしてもらえればと思います。

（青森大学ホームページより）

青森大学オープンカレッジ

青森大学オープンカレッジ概要について　　［オープンカレッジ所長　藤田　均］

青森大学では、昭和５２年、本格的な生涯学習を推進する機関として青森大学文化センターを発足、その後、国の文教政策が「大学が生涯学習センターを自主的に開設し、社会人向け講座への開放を」と提言したことが追い風となって、平成２年には青森大学オープンカレッジとして新たなスタートを切りました。以来今日まで、大学の研究、教育の成果を広く一般に開放する全国でも数少ない本格的な生涯学習常設機関として、また、地域貢献に寄与することを目途に発展を遂げてきております。

昭和５２年度の開設から平成２６年度までの総受講生はおよそ 3,500 人にのぼり、本大学教員の協力体制により３８年間にわたって研究と教育の成果を地域に還元し、地域文化の向上と活性化に貢献してきた実績は高く評価されております。

本カレッジの受講には年齢・性別・学歴等あらゆる制限がありません。大切なことは、自己を高め、新しい知識を身につけ、人生を豊かに過ごそうという意欲です。これからは生涯にわたっての学習が人生を支える時代を迎えていると考えます。

平成２６年度までの本カレッジの常設コースとしては、市民大学講座、スキー大学、大自然トレッキング、みちのく散歩みち、油彩画教室、社交ダンス教室、夏休み植物観察会及び春のスノーシュー教室の 8 コースがありました。しかし、本年度は組織の縮小等に伴って、「他の組織による代替教室が青森

市内に既にあって、必ずしも本カッレジの講座でなくても受講が可能なもの」とした「社交ダンス教室」と「油彩画教室」の２教室については、要望は高いものがありましたが、当分の間やむを得ない措置として休教室に致しました。

なお、講師陣としては、さまざまな分野で研究、講義活動を実施している青森大学の第一線教授陣を中心に、講座によってはお招きした学外の専門家を特別講師としています。

本カレッジの平成２７年度４月から１２月までの実施状況は、次のとおりです。

１　市民大学講座

平成２７年度の市民大学講座は、4月から１２月までの間、下記のとおり全２０回が行われました。

（敬称略）

回	実施日	テーマ	講師	参加者数	内容概略
1	4月17日	法から見た「町内会」活動	平井 卓（前経営学部教授）	４６人	法律から見た町内会によるごみ置き場の管理、旅行会での事故対応など
2	5月8日	原子力半島を考える	菅　勝彦（前社会学部長）	４３	日本は原発の大国で、その中でも青森は将来的に唯一の新建設可能地
3	5月29日	効果的なコミュニケーション	藤林正雄（現社会学部長）	４３	自分の思いが伝わらない時の行き違いを防ぐ、良い人間関係による自己表現法
4	6月5日	中国少数民族の服飾	江川靜英（経営学部教授・副所長）	４３	中国少数民族の民族衣装の文様の特徴と文様が意味すること
5	6月12日	日本の林業と青森の森のこれから	田村早苗（前経営学教授）	４２	世界でも森林面積率が高い日本。青森の木材も合板が主流に。
6	6月26日	カナダと日本、そしてカナダ人の青森での生活	ケチャスン・ワード（ソフトウェア情報学准教授）	４１	カナダ東南部（USA 五大湖北岸）の生活や自然の紹介及び青森の雪の生活での大変さ
7	7月3日	イギリスの紀行家イザベラバードが見た青森	黒石ナナ子(イザベラバード研究家/タレント司会)	４６	140 年前の黒石の祭り、習俗を世界に紹介したイギリス旅行家、イザベラ。その人柄と紀行文。混浴時の礼儀作法など。
8	7月10日	南部町の史跡とサクランボ狩り	県文化課学芸員・南部町観光課	４１	（野外学習）南部町縄文遺跡、聖寿寺館遺跡見学と名川地区のサクランボ狩り
9	7月31日	健康で元気に生きるための運動	雨森輝昌（前本カレッジ所長）	３８	第２体育館での実習…基本の動き、ひざなどの痛みを予防する運動、歩行法など
10	8月21日	認知症の予防と薬	大上哲也（薬学部教授）	３８	認知症の発生機構、認知症の判定法、認知症にならないための予防運動など
11	8月28日	津軽三味線の師匠高橋竹山を語る	西川洋子(三味線奏者、市内甚太古女将、語り部)	４３	竹山の内弟子となってからの修行、演奏会に同行した際のエピソード。叩くと弾くとの違い。あいや節など３曲の実演。
12	9月11日	環境保全とリンゴ	福士好文（青森県り	４１	病害虫に強くおいしいリンゴの実がなる

		病害虫防除法	んご研究所病虫部長）		品種の開発、昆虫成長制御剤による人に無害な害虫防除法などの説明
13	9 月 25 日	紫式部と清少納言の生き方	三村三千代（八戸短大客員教授・日本古典文学）	４０	同時代を生きた古典文学の両巨頭の関係を切り口に平安時代の女性の生き方を解説。桃尻語訳枕草子の朗読はプロ級
14	10 月 2 日	吉田松陰が訪ねた弘前松陰室	小笠原豊（養生会理事長）	４１	（野外学習）松陰がなぜ津軽を訪れ、藩の儒学者伊東広之進と何を話し、津軽半島の軍備状況を見て行った理由の解説
15	10 月 16 日	市商店街のヘルスツーリズム	工藤雅世（社会学部教授）	３９	青森市中心商店街の利用を、健康と観光を加味して学生を交えプログラム化
16	10 月 23 日	叙情歌を楽しむ（コーラス指導）	白岩 貢（ソフトウェア情報学部准教授）	４２	「紅葉」「ちいさい秋見つけた」「翼をください」「花は咲く」のコーラス指導
17	10 月 30 日	スマホブーム、スマホ社会を考える	赤坂俊道（経営学部教授）	４１	スマホの普及とアップル社のスマホ製造法、スマホの使用でできること(実演)
18	11 月 6 日	ソフトボール女子のオリンピックへの道	齋藤春香（弘前市スポーツ振興課主幹・前監督）	４３	2008 年北京オリンピックで優勝したソフトボール女子。監督としてこだわったチーム作り法の紹介。弘前の家族との話
19	11 月 20 日	小牧野遺跡の今とこれから~世界遺産登録を目指して	児玉大成（青森市教育委員会文化財課主幹）	４２	26 年度行った青森市との共催“小牧野遺跡にみる祭祀と土木技術”の市民大学講座版の紹介。縄文時代の特異性の説明等
20	12 月 4 日	柔道と私～冒険心を持とう～	崎谷康文（青森大学学長）	４６	講道館柔道五段の先生が、ご自身の体験から柔道のすばらしさ、技の掛け方、負けても冷静さを保つ平常心の大切さなどを解説。
①	7 月 17 日	自分史の作り方	伊藤英俊(学生課)	５	自分史の書き方のアドバイスと自費出版予算の目安についての説明など
②	9 月 24 日	介護技術体験（移動範囲を広げる）実習	宮川愛子（社会学部講師）	２(学生９人)	26 年度に行った“心の健康と介護の仕方”の 2 回目。床ずれの防ぎ方、ベットと床からの抱き上げ介助法の実習指導
計				846	

（注）①、②は、オプションとして実施されたものです。

第 9 回　元気に生きるための体操（雨森先生）　　第 11 回　高橋竹山師匠を語る・西川洋子先生

２　大自然トレッキング

大自然トレッキングは、全５回を実施しました。講師は自然サポーターの柿崎行則氏（雲谷ヒルズ勤務）及び藤田が務めました。なお、２８年度の本「大自然トレッキング」につきましては休教室を検討中である旨話をしたところ、ほぼ全員より存続希望が寄せられました。これについては事務局によるフォローが困難なため、講師を紹介することで、同好会形式で活動を続ける道を示唆いたしました。

回	実施日	トレッキング場所等	参加者数
1	5 月 21 日	青森梵珠山縦走（野木和公園～馬の神山～梵珠山）　天気に恵まれ、陸奥湾が眺められ、オオバキスミレ、サンカヨウなどを見ることができた。	１９人
2	6 月 18 日	八幡平茶臼岳～黒谷地湿原　眺望は霧できかなかったが、ヒナザクラ、ショウジョウバカマなど大量、多種の高山植物を堪能できた。	３２人
3	7 月 16 日	秋田駒ヶ岳（8 合目のバス停から片倉岳（1500）、ニッコウキスゲ群生地、阿弥陀池、駒ヶ岳（1737）、（頂上はスルー）、横岳（1583）、焼森～8 合目）　雨上がりの中、お鉢連山の稜線歩き 3 時間。高山植物の女王といわれるコマクサを始めミヤマウスユキソウ、ハハコグサの 2 つのエーデルワイスやエゾツツジなど数多くの高山植物が見られ、参加者は大満足であった。	２８人
4	9 月 17 日	ミニ白神（鰺ヶ沢町）晴天に恵まれ、ミニ白神（江戸時代、鰺ヶ沢町に残された水源林としてのブナの原生林）の中、ブナ林をのんびり散策。帰り道、岩木山百沢の国民宿舎アソベの森（いわき荘）にて温泉入浴。	９人
5	10 月 8 日	八幡平後生掛温泉～栂森（1350、秋田県）の往復。台風 23 号から変わった、発達した温帯低気圧の影響から風が強く、寒い中、全員無事頂上を極め岩手山など絶景を望む。途中、オオカメノキ、ミネカエデ、ブナ等の黄葉、紅葉を探勝し、最後は温泉に浸かり大満足であった。	２３人
計			１１１人

６月１８日　八幡平茶臼岳での記念写真

６月１８日　植物観察会の様子

９月１７日　ミニ白神での植物観察会の様子

３　みちのく散歩みち

みちのく散歩みちは、バス代の値上がりなどから１回当たりの参加費が高くなり、例年の全６回を４回にして実施しました。その他特別企画２回を実施しています。

講師は、今回も特別（オプション）を除き、元青森県郷土館学芸課長の成田 敏氏にお願いし、解説してもらいました。なお、オプションは弘前松陰室の小笠原氏及び学生課伊藤英俊が担当しました。

なお、２８年度の「みちのく散歩みち」は休教室を検討している旨話をしたところ、ほぼ全員から存続の嘆願書が寄せられたため、回数を２回に縮小して事務量を減らすなどの対応を検討中です。

回	実施日	見学、探勝場所など	参加者数
１	６月９日	古都弘前の社寺・津軽藩ゆかりの…革秀寺、誓願寺、最勝院五重塔など	２２人
２	６月 24 日	八戸キャニオン（石灰石の大露天掘り現場）、三陸復興国立公園蕪島、種差海岸の東日本大震災後の自然など	２０人

３	7 月 14 日	五所川原立佞武多の館、津軽鉄道乗車、金木斜陽館、三味線展示館、芦野公園、川倉地蔵堂など	１６人
特別１	7 月 28 日	吉田松陰がロシアに対する防衛状況視察のため尋ねた歴史を語る弘前市松陰室（養生会小笠原豊理事長の説明）、相馬ロマントピアでのプールと食事（ロマントピアのバス利用）	２１人
４	９月１日	大館市（秋田県）の秋田犬博物館及び長走り洞窟（長走風穴植物群落）、芝谷地湿原（ハッチョウトンボを見ることができ、感激）、大館工芸社（曲わっぱ工房）、三鶏記念館など	２１人
特別２	９月 15 日	平川市清藤氏庭園、黒石市村上家庭園及び鳴海家庭園の見学とアップルランドの温泉浴（アップルランドのバス利用）	１８人
計			１１８人

(注)特別の 2 回は、見学先のバス及び外部講師を置かないことで、参加料を半額程度にして対応しました。

６月２４日八戸キャニオン

同日の種差海岸

４　第３回夏休み植物のふしぎ観察会（無料講座）　　8 月 2 日　　参加者数 8 人

８月２日（日）大学校内中庭にて、花の作りのしくみについて所長藤田が解説しました。

雨上がりの中、タンポポやクローバーの花を手にとって、はなびらの形、雄蕊、雌蕊、茎と根の確認等を行いました。参加者は幸畑地区在住の中学生からお年寄りまでの８人。初めて知ったことばかりだったと喜ばれました。

タンポポの雌蕊やクローバーの地下茎を確認している様子

青森大学総合研究所

[総合研究所紀要の発行]

青森大学付属総合研究所紀要（Journal of Aomori University Multidisciplinary Research Institute）、第 17 巻 1 号（平成 27 年 9 月 31 日付）が、下記の内容で発行された。

・澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温・柏谷 至・佐々木 てる・中村和生・木原博, 「ウェブ調査と郵送調査の直接比較 ― 同一サンプルを用いた回答者特性及び自己効力得点の比較 ―」, pp.1-22
・小久保 温・柏谷 至・石橋 修・櫛引 素夫・坂井 雄介・佐々木 てる・ 田中 志子, 「エコマネーWeb プラットフォームのドメイン・モデルの設計」, pp.23-31
・櫛引 素夫, 「北信越地域における北陸新幹線開業直後の変化と課題」, pp.32-44

◎公開フォーラム「まち・駅・未来を考える－北海道新幹線開業に向けて」を開催

青森大学付属総合研究所（所長＝崎谷康文・青森大学学長）と社会学部・櫛引研究室は 12 月 12 日、青森市の新町キューブで、公開フォーラム「まち・駅・未来を考える－北海道新幹線開業に向けて」を開催した。今別町の振興に携わっている学生や市民ら約 60 人が参加し、人口減少時代のまちづくりの在り方や、青函圏の枠組みについて、活発に意見を交わした。

フォーラムは、櫛引研究室が青森学術文化振興財団の助成を受けて実施した調査研究事業の一環として開催した。基調講演した戸所隆・高崎経済大学名誉教授（前・日本都市学会会長）は「鉄道で 15 分の範囲は日常生活圏、30 分圏は日常交流圏、60 分圏は経済関係圏になる」「地域のアイデンティティを高めて、独自な 立ち位置を確立する必要がある」「どのような人材を教育するかが大切」などと問題提起した。

引き続き、櫛引素夫准教授が、北陸新幹線の沿線調査に基づき「長野は駅舎や駅前広場の改装と善光寺の御開帳で途中駅化のダメージを免れたが、長野新幹線の名前が消えたことなどに市民の不安が根強

い」「新潟県上越市や富山県高岡市は、新青森駅と同様に駅が郊外 に立地し、市民の不満が強いが、適切な対応を必ずしも見いだせずにいる」などと報告した。さらに、青森市民に対する意識調査の結果について、青森駅や新青森駅の現状に「満足している」と答えた人はゼロで、「どちらかといえば不満」「不満」が 7 割以上を占めている事を報告。その一方、駅周辺整備の必要性については方向性が割れており、市民としての合意を形成する仕組みづくりが必要だと指摘した。

質疑では、「自転車で奥津軽の魅力を知ってもらうイベントを企画している」「市民の諦めムードをどのように変えていけばよいか」など、多様な論点から、学生や市民から多くの報告や提案があった。

経　営　学　部

【国際交流活動： 留学生の教育研修】

平成 27 年 7 月 27 日、昨年 9 月に台湾から来日した短期留学生 5 名による成果報告会および修了式が行われ、留学生一人ひとりが経営学部の短期留学プログラムを通じて学んだことを発表し、多くの思い出とともに帰国しました。

また、9 月 16 日の受入式では台湾から新たに 6 名の短期留学生の受け入れが学長より許可されました。9 末には留学生歓迎会、10 月には生涯学習フェアに参加、りんご狩りや紅葉狩りも体験しました。11 月にはユネスコのグローバルパーティ、12 月には国際交流協会のクリスマスパーティーに参加して、日本人との交流を楽しみました。

（石塚ゆかり　准教授）

【高大連携推進事業】

12 月 10 日（木）、平成 27 年度青森県の商業教育における高大連携推進協議会が青森商業高校において開催され、本学経営学部は「高大連携から接続への取組み状況について」というテーマで報告の機会を頂いた。

本報告では、平成 26 年 7 月に本学と青森商業高校との間で締結された高大 7 年間で日商簿記 1 級取得を目指す連携事業を念頭に、日商簿記 2 級取得者が入学した場合に 1 年次から学生の簿記習熟度に応じて日商簿記 1 級～3 級に対応した科目を履修できるような高大接続態勢を整備したことなどについて報告した。

また、昨年に引き続き、青森商業高校から本学に入学する生徒（推薦入試合格者・日商簿記 2 級取得済み）を対象に入学前学習を実施する。進路決定後の時期の有効活用および高大接続の観点から、日商簿記 1 級の内容について入学後講義で使用する教材で進める。

（松本大吾　専任講師）

【日本商工会議所　簿記検定対策】

本学では日商簿記検定取得を目指す学生を支援しており、検定前には補習（主催：青森大学会計研究会）を実施している。日商簿記検定取得を目指す学生には部活に所属しているため、これまで夕方に実施してきた補習に参加できない学生もいた。そこで、そういった学生には授業の空き時間を利用して 1 対 1 で補習を行うなど、学生一人ひとりに適した試験対策を行った。これにより、着実に検定試験合格者を輩出している。

また、今年度より発足したサークル「青森大学会計研究会」は、①会計関連資格の取得により、所属学生の進路目標を達成すること、②会計関連資格の取得を目指す学生の学習・情報共有の場を提供すること、③本学において会計関連資格取得に取り組む学生の対内・対外的拠点となることをおもな活動目的としている。

それぞれの部員がそれぞれの目標（日商簿記検定各級、税理士試験）に向けて勉強しているだけでなく、対外的な活動として、高大連携推進事業の大学訪問会（8 月 5 日）、オープンキャンパス（9 月 12 日）、木造高校 1 年生の大学見学会（10 月 21 日）、黒石商業高校 1 年生の大学見学会（11 月 16 日）などで模擬授業の補助や発表を行った。

（松本大吾　専任講師）

【平成 27 年度「ＩＴパスポート試験」合格者１名（主催：情報処理推進機構）】

平成 27 年 6 月 14 日に行われた平成 27 年度『情報処理技術者試験』(独立行政法人　情報処理推進機構)の試験区分、『IT パスポート試験』において、経 25035 近藤 涼平 君が経営学部から見事合格しました。この結果、平成 21 年より新設された『IT パスポート試験』の経営学部からの合格者は累計 12 名をかぞえます。

本試験は、IT リテラシーを正しく理解し有効に活用できる能力が必要とする、IT に関する基礎知識を問う国家試験です。多くの企業でも社員教育や研修に活用され、また資格取得奨励制度を設けるなど社員・組織全体の IT 力向上を図っています。

今後も学生にチャレンジを呼びかけながら、自らが目標に向かって積極的な姿勢で臨むように、これまで講義や試験対策講習会等で得た多くの経験を活かし指導を行っていきます。

（石川祥三　教授）

【平成 27 年度経営学部プロジェクト演習の取組み】

平成 26 年度に試行されたプロジェクト演習が、本年度より本格的にスタートした。本科目では、経営学部所属の 5 名の専任教員によるオムニバス形式の講義と、フィールドワークを含めたアクティブラーニング形式の演習とを通じて、プロジェクトの計画、運営管理に必要な基礎的知識を身に付けるとともに、プロジェクト立ち上げ・提案を行う。身近な地域の課題に向き合い、各自が興味のある領域を選んで、ゼミの枠を超えたサブゼミ的な形でプロジェクトチームを構成し、十分な討議のもとにアクション

プランやプロジェクトの構想を立て、企画提案書を作成する。今年度は主に、「知財流通学生人財活用事業」（開放特許を活用した新ビジネスの創造）と「学生発未来を変える挑戦プロジェクト」に参加し、大きな成果を上げた。前者については 1 年間を通じた活動の成果について、11 月 28 日に東京のベルサール半蔵門で開催された東日本大会において、「中身の見える冷蔵庫」に関するビジネスプランの発表を行った。惜しくも入賞は逃したものの、神奈川県平塚市の関係者から高い評価を受け、今後、産・官・学で連携した取組みへとつなげていくよう調整を進めている。後者については、1 年間にわたる取組みの成果として、12 月 26 日に弘前市土手町コミュニティホールで開催される学生発未来を変える挑戦フォーラムにおいて、高齢者を対象としたウォーキングイベントのプランについての発表を予定している。

（プロジェクト演習での活動の様子）

（東日本大会での発表の様子）

（堀籠崇　准教授）

【経営学部教務委員会の取組み】

平成 27 年度よりスタートした様々な取組みについて、少しずつ成果が出始めている。

第一に、昨年度より開始した、ソフトウェア情報学部との提携事業である「基本情報技術者試験午前免除制度」における最初の履修者が輩出された。経営学部・ソフトウェア情報学部より計 7 名の学生が修了試験に合格、うち 3 名が本試験に合格している。今後更なる資格取得率の向上に向けて、資格取得支援、ならびにカリキュラムの調整を進めていきたい。

第二に、県内商業高校との連携協定に基づく、簿記・会計関連科目の充実の成果として、商業高校を中心に本学部への関心が高まっている。簿記・会計プログラムの責任者である松本が中心となって、高大連携から高大接続へと、その取組みを加速させているが、今後は教務の側面から、より一層のカリキュラムの充実と担当教員へのサポート体制を整備していくことが必要である

第三に、本年度より開始した、経営学的視点による地域貢献のあり方について実戦形式で学ぶ、5 名の専任教員（石塚、岩淵、中村、堀籠、松本）によるオムニバス形式の「プロジェクト演習」では、履修学生が経営学に関連した様々な外部プロジェクトに挑戦し、目に見える形で成果をあげてきている。

今後も全学的な大学改革と歩調を合わせて、確かな教育効果を念頭におきつつ、教学体制の充実を図っていきたい。

（堀籠崇　准教授）

【全日本学生新体操選手権大会で前人未到の連覇】

8 月 24～27 日、新潟リージョンプラザ上越において第 67 回全日本学生新体操選手権大会が開催された。団体競技において前人未到の 14 連覇を達成し、個人総合選手権においては、永井直也（経 2）が準優勝、種目別選手権含む 5 つのメダルを獲得した。

また、11 月 5～8 日、岐阜メモリアルセンターふれ愛ドームにおいて第 68 回全日本新体操選手権大会が開催された。ジュニア・高校・大学・社会人の上位 17 チームによる日本の頂点を決める団体競技において 2 年連続 11 回目の優勝を果たした。個人総合選手権においては、永井直也（経 2）が 4 位に入賞し、種目別選手権ではリング 3 位・クラブ 2 位のメダルを獲得した。

(中田吉光　教授)

[著書、論文、研究ノート、評論・書評、寄稿、調査報告書など]

櫛田　豊　「サービス商品と国民所得（下）」青森大学『研究紀要』第 38 巻第 2 号，2015 年 7 月 1 日

堀籠　崇　「青森県における病院の医療情報公開の現状と課題」青森大学『研究紀要』第 38 巻第 1 号、2015 年 7 月

「オープンデータの意義について―企業価値の創造―」青森大学『研究紀要』第 38 巻第 2 号、2015 年 11 月

松本大吾　共著『新版 入門経営分析（第 2 版）』倉田三郎監修, 同文舘出版, 2015 年 12 月。

「日本会計研究学会第 88 回東北部会」（観光物産館アスパム、2015 年 7 月 18 日）において準備委員長、コメンテータを務める。

地域経営学会第 7 回研究会（ホテルリソル函館、2015 年 10 月 31 日）において司会兼コメンテータを務める。

[社会活動、地域活動、講演など]

赤坂道俊　【論説】

平成 27 年 9 月 7 日「農漁村地域再構築を」（「若者定着-方策は・青森大赤坂教授に聞く」「東奥日報」朝刊

平成 27 年 10 月 17 日「県経済全体に影響」（TPP 大筋合意「県内識者こうみる」）「東奥日報」朝刊

平成 27 年 10 月 30 日「若者定着へ・産業力強化」（「人口減社会」第 3 部・青森 I ターン・番外編）「讀賣新聞」朝刊

【社会活動】

平成 27 年 7 月 9 日第 1 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 7 月 27 日第 1 回青森地方最低賃金審議会青森県最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 8 月 3 日第 2 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 8 月 18 日第 2 回青森地方最低賃金審議会青森県最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 8 月 20 日第 3 回青森地方最低賃金審議会青森県最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 8 月 21 日第 4 回青森地方最低賃金審議会青森県最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 8 月 24 日第 3 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 8 月 24 日第 5 回青森地方最低賃金審議会青森県最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 9 月 9 日第 4 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 9 月 15 日青森地方最低賃金審議会第 1 回産業別最低賃金検討小委員会、於：ラ・プラス青い森

平成 27 年 9 月 17 日第 5 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 9 月 17 日第 5 回青森地方最低賃金審議会第 2 回産業別検討小委員会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 10 月 8 日青森地方最低賃金審議会青森県自動車小売業最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 10 月 9 日青森地方最低賃金審議会青森県各種小売業最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

平成 27 年 10 月 20 日第 6 回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

【講演】

平成 27 年 10 月 20 日「スマートフォンの秘密－スマホ社会を考える」青森大学オープンカレッジ市民大学第 17 講。

石塚ゆかり　【社会活動、地域活動、講演など】

「医療不信とコミュニケーション-こころの力を引き出すことばの力」国際和合医療学会、第 21 回国際和合医療セミナー、於：はまなす会館、11 月 22 日

「韓国語母語話者の不満表明における配慮行動 －韓国語の会話指導への応用－」第 6 回日本韓国語教育学会、於：札幌市教育文化会館、10 月 31 日

井上　隆　[外部研究助成・事業助成]

助成機関:(公益財団法人)青森学術文化振興財団、助成金額: 1,690(千円)、

受託組織:青森地域経済活性化懇談会(代表 井上隆)、事務局:青森商工会議所、

調査研究主題:「人口減少下における地域経済の現状と今後の対応策の検討」

[社会活動・地域貢献・講演など]

７月　青森市都市整備部 緑の基本計画 改定懇談会（第 1 回）、委員長、沖館市民センター(7/16)

７月　青森市都市整備部 冬期バリアフリー計画推進協議会（平成 27 年度･第 1 回）､会長、青森市庁舎(7/17)

７月　国交省青森運輸支局･厚労省青森労働局共催、トラック輸送における取引環境･労働時間改善青森県協議会(第 1 回)、会長、青森国際ホテル（7/29）

８月　青森商工会議所 青森地域経済活性化懇談会(第 1 回)､座長､ラ･プラス青森、（8/6）

９月　青森市中心市街地活性化協議会、「青森市戦略的中心市街地活性化事業補助金」に係わる意見書提出(9/20)

９月　青森商工会議所 青森地域経済活性化懇談会・学識者会議（第 1 回）、座長、

青森商工会議所(9/28)

10 月　青森市都市整備部 緑の基本計画 改定懇談会（第２回）、委員長、沖館市民センター(10/7)

10 月　青森市中心市街地活性化協議会、第 1 回運営委員会･兼･青森まちなかフィールドスタディ事業補助案件審査会、副会長、青森商工会議所(10/9)

10 月　青森市都市整備部 冬期バリアフリー計画推進協議会(第 2 回)、会長、青森市庁舎(10/22)

11 月　㈱全国商店街支援センター・青森市新町商店街振興組合共催、 商店街ビジョン作成会議(第 1 回)、オブザーバー参加、新町まちまちプラザ(11/6)

11 月　青森商工会議所 青森地域経済活性化懇談会(第 2 回)、座長、ラ･プラス青森、(11/9)

11 月　青森市中心市街地活性化協議会、「青森市戦略的中心市街地活性化事業補助金」に係わる意見書提出(11/11)

11 月　青森県健康福祉部 青森県公衆浴場入浴料金協議会（第 1 回）、委員長、ウェディングプラザアラスカ(11/25)

11 月　(公益社団法人)青森県トラック協会 青森県貨物自動車運送適正化事業実施機関評議委員会(第 1 回)、委員長、青森県トラック協会研修センター、(11/27)

12 月　国交省青森運輸支局・厚労省青森労働局共催、トラック輸送における取引環境･労働時間改善青森県協議会(第 2 回)、会長、県トラック協会研修センター（12/11）

12 月　青森県健康福祉部 青森県公衆浴場入浴料金協議会（第 2 回）、委員長、ウェディングプラザアラスカ(12/17)

12 月　青森商工会議所 青森地域経済活性化懇談会、先進地現地調査、熊本市・くまもと県民交流館「パレア」、鹿児島市中心商店街･商工会議所他、(12/20～22)

12 月　青森県県土整備部 青森空港有料道路経営改善検討委員会(第 1 回)、委員長、ラ・プラス青い森(12/24)

中田吉光　【社会活動・地域貢献・講演など】

1.第 8 回青森県民スポーツ・レクリエーション祭オープニングセレモニーで部員とともにラジオ体操の説明及び模範演技を行う。（2015.7.5）

2.みちぎんドリームスタジアム（青森市スポーツ会館）において「ラジオ体操春季講習会」の協力を行った。（2015.7.12）

3.第 66 回青森県中学校体育大会夏季大会新体操競技の審判長」（2015.7.19）

4.今年初となる「ぶるーＮＥＢＵＴＡ」をねぶた祭りの開催期間にあわせ開催。ねぶたの家ワ・ラッセイベントホールにおいて 8 日間青森の美しい春夏秋冬の情景と文化を映像と津軽弁で綴り、時に可憐に、そして猛々しくアクロバットなダンスを伝統楽器とともに体感していただいた。（2015.7.31、2015.8.2～8）

5.全日本学生新体操選手権大会団体 14 連覇の広告のため知事表敬訪問を行った。（2015.9.11）

6.「ＢＬＵＥフェスティバル」を開催。ＭＣにあべこうじさんを向かえ、午前中に、だし活サロン・子ども体操教室、午後からチームＢＬＵＥ演技披露会を行った。（2015.10.4）

7.「平内町体育協会 70 周年事業」のイベントとして演技会を開催、予想以上の集客を得た。（2015.10.11）

8.青森市スポーツ推進委員会（柳川庁舎）に出席する。（2015.10.28）

9.ＮＨＫラジオで全日本新体操選手権大会の感想と今後の展望についＬＩＶＥ出演（主将）をする。（2014.11.20）

10.ホテル青森にて平成２７年度都道府県体育協会連合会「東地区」事務局長研修会の講師として、「青森から世界へ」～男子新体操の普及と文化の構築～と題し、講演を行う。（2015.11.26）

11.ＺＩＰ！ＦＲＩＤＡＹ（ＲＡＢ）において、全日本新体操選手権大会優勝の演技ＬＩＶＥ出演をする。（2014.11.27）

12.ＫＩＴＡＫＡＭＩアーティスティックスポーツフェスタ２０１５に招待を受け演技を行う。（2015.12.6）

13.スーパーＪチャンネルＡＢＡの中で新体操の舞台「ＢＬＵＥ」の取材を受け放送される。（2015.12.11）

14.東奥日報女子まるが新体操の舞台「ＢＬＵＥ」練習の模様の見学、次の日朝刊に掲載される。（2015.12.13）

15.「元気あっぷる体操」制作（2014.3～現在）平均寿命が全国最下位の青森県。「脱！短命県」のキャンペーンとしてＮＨＫのテレビやラジオで流せる体操を作り、県内 40 市町村を廻りながら地域の人たちと触れ合う企画を作成。

・青森市老人クラブ連合会（2015.8.19）青森市総合福祉センターにおいて「元気あっぷる体操」の講師を勤める。
・リレーフォーライフ（2015.9.5）新青森県総合運動公園において「元気あっぷる体操」の指導を行う。
・大野小学校 4 学年への体操指導（2015.9.17）後日行われる学習発表会用に指導をする。
・甲田中学校「健康集会」（2015.10.18）文化祭にてサプライズゲストとして登場し「元気あっぷる体操」の手本をする。
・大野小学校学習発表会（2015.10.24）学習発表会に参加する。
・幸畑小学校 4 学年指導（2015.12.14～15）2 日間 4 学年に体操を指導する。「元気あっぷる体操」を学んだ 4 学年は、年明けに老人福祉施設に出向き「元気あっぷる体操」を指導にあたる予定。

沼田　郷　［地域・社会貢献］

８月　平内町役場　打ち合わせ＆フィールドワーク
９月　平内町移住おためしプロジェクト　（学生派遣）
９月　大学生観光まちづくりコンテスト出場（沼田セミとして）
９月　財務省　青森財務事務所　大学との事業連携に関する協議
９月　新町通り商店街　婦人部（鍋横綱コンテスト開催に関する打ち合わせ）
９月　平内町まち・ひと・しごと創生会議
10 月　中心市街地活性化協議会「まちなかフィールドスタディー」助成金事業
　　プレゼンテーション
10 月　青森大学学園際展示　青森の観光プラン（沼田ゼミとして）
10 月　青森市社会資本整備委員会（於：青森市役所）
10 月　平内町まち・ひと・しごと創生会議（第２回）

12 月　財務省青森財務事務所所長による講演会開催（本学において）

［その他］

東奥日報　「ニュース力アップ」隔週連載中。

松本大吾　【社会活動、地域活動、講演など】

12 月 10 日　平成 27 年度青森県の商業教育における高大連携推進協議会（於：青森商業高校）

12 月 21 日　平成 27 年度校内生徒商業研究発表大会（於：青森商業高校）

堀籠　崇　9 月 4 日　講師「企業オープンデータ戦略の展開―その意義と企業価値の創造についてー」『オープンデータを活用した営業戦略企画研修』於：株式会社ソフトアカデミーあおもり（青森）　主催：青森県

9 月 26 日　報告　平成 27 年度夏季青森大学教職員研修会 於：青森大学 6 号館記念ホール

11 月 13 日　大手企業の技術を活用した大学生によるビジネスアイデアコンテスト（プロジェクト演習チームとして）於：ウエディングプラザアラスカ（青森）

11 月 28 日　知財活用アイデア東日本大会（プロジェクト演習チームとして）於：ベルサール半蔵門（東京）

12 月 19 日　報告 「『青森大学発　大学生の大学生による地域のための活性化コンテスト（仮）』を通じた地域貢献と専門的能力の育成プログラムー高大連携も視野にー」第 2 回青森大学教育研究プロジェクト成果中間報告会 於：青森大学つどいのスペース（642 教室）

12 月 26 日　学生発未来を変える挑戦フォーラム 於：弘前市土手町コミュニティパーク（青森）

社　会　学　部

前期は在学生の「後輩へのメッセージ」で学生生活を紹介し、出身校へ送りました。

10 月には大学祭で、学部紹介を行いオープンデータによる研究発表や地域貢献活動の展示、福祉施設で作った商品の販売、ハンセン病の理解と松丘保養園の歴史と未来について展示するなど、来学者も興味を持って見学し社会学部の特徴が存分に発揮されていました。先生方の協力なくしては、成功しなかったと感じています。

さて、学部の存続に関わることとして学生募集があります。後期は対象高校を絞って学生募集に努め、昨年度と同程度の受験者を確保できそうですが、目標は 70 名以上の入学生確保です。学部の先生方が力を合わせて、気を緩めることなく努力していくことが肝要だと感じています。

◎衆院議員ら招きトーク授業

「地域社会学Ｉ」授業で７月１１日、衆議院議員・津島淳氏（自由民主党）と、日本共産党東青地区委員長・吉俣洋氏がゲスト・ティーチャーを務め、青森大学生とのトーク授業が行われた。

両氏はともに、平成 25 年秋にも個別に、青森大学社会学部の「基礎演習」でゲスト・ティーチャーを務めたことがある。今回は初めてのトーク形式で、「人口減少」「18 歳選挙権」をめぐり、熱い議論を交

わした。

津島氏は詳細なデータを示しながら、「人口減少への対応には地元の産業の育成が欠かせない」と強調した。また、吉俣氏は「子どもは女性しか産めないが、育てるのは男性でもできる」と、意識変革の重要性を指摘した。

18 歳選挙権については、ともに喜ぶべき前進だと受け止めつつ、20 代などの投票率の低さについて、政治に携わる人々が働きかけを強める必要があるとの認識で一致した。

◎【平内町職員と青森大学生がワークショップ】

平内町の若手職員らがつくる平内町政策推進調査研究会のメンバー13 人が 7 月 15 日、青森大学を訪れ、２～４年生の学生 33 人と、人口減少の現状や対策を話し合うワークショップを行った。

ワークショップは「地域社会学Ⅰ」の特別授業として、町と大学が締結している包括的連携協定に基づいて実施した。研究会メンバーは、この種の外部との合同ワークショップは初めてといい、最初は学生ともども緊張した面持ちだったが、町の魅力や課題を語るうちに打ち解け、和気あいあいと意見交換した。

学生たちは「夏泊半島に自生する椿を見てみたい」「ホタテを食べに行きたい」などと感想を語り、人口減少克服のアイデアを懸命にワークシートに書き込んでいた。

◎【空き家活用のワークショップ】

「地域社会学Ⅰ」を履修している２～４年生約 30 人が 7 月 8 日、幸畑団地の空き家活用策を探るワークショップを行い、幸畑団地地区まちづくり協議会役員や青森市職員と活発に議論を交わした。

幸畑団地地区まちづくり協議会は、団地内の空き家を借り受け、集会施設として活用する事業に取組みます。学生の新鮮な視点から、よりユニークな活用策を提案してもらおうと、今回のワークショップが実現した。

学生たちは「昔遊びを通じたお年寄りと子どもたちの交流」「青森大学に入学したばかりの学生を対象に、地元の皆さんに幸畑の歴史を語ってもらう」など、思い思いのプランを披露した。

参加した同協議会の張山喜隆運営委員長や青森市の舘山公・市民協働推進課長からは「そのプランに青森大学生がどう主体的にかかわるのか」「ぜひ、もっと皆さん自身が楽しむ企画を」というった突っ込んだ指摘があり、和気あいあいとした中にも、ぴりりと引き締まった空気が漂っていた。

[青森県統計グラフコンクール　2 年連続知事賞受賞]

社会学部 2 年生の須藤 大貴さん、今井 裕樹さん、舛沢 将汰さんの共同制作「結婚したくても出来ないのは何故？」が青森県知事賞（パソコン部門）に選ばれました。青森大学としては昨年度に続き最高賞の受賞となりました。

社会学部 2 年の能正 武さん、飯塚 歩さん、工藤 諒二さん、有馬 佑太さんの合作「空き家の未来は暗くない！」と、友田 有美さん、倉岡 優樹さんの「子ども虐待はなぜ起こる？」がパソコン部門の入選を受賞しました。

青森県知事賞を受賞した社会学部 2 年生須藤 大貴さん、舛沢 将汰さん、今井 裕樹さん（左から）

[青森大学が青森県統計グラフ指導優良校に選ばれました]

昨年に引き続き、青森県統計グラフコンクールに優秀な作品を多数出品したことにより、指導優良校として表彰されました。社会学部 2 年生グループと指導教員が崎谷学長に成果を報告しました。

（左から崎谷学長、須藤大貴さん、今井裕樹さん、升沢将汰さん、鈴木教授）

[統計グラフ全国コンクールで社会学部受賞 2 年 3 チームが受賞]

社会学演習Ⅰ（2 年前期）では、学生がデータをもとに社会の問題を独自の視点から分析・提案していく活動として統計グラフ作成に取組み、青森県統計グラフコンクールに応募しています。そこで上位になった本学の 3 チームが県代表として全国大会に進み、3 チームすべてが入賞しました。

≪入選≫

「空き家の未来は暗くない！」（能正武、工藤涼二、後列左から、飯塚歩、有馬佑太さん）

≪佳作≫

「子ども虐待はなぜ起こる？」（友田有美、倉岡祐樹さん）

「結婚したくても出来ないのは何故？」（須藤大貴、升沢将汰、今井裕樹さん）

（前列左から、能正武、工藤涼二、後列左から、飯塚歩、有馬佑太さん）

[社会学部 2 年生チームが青森県統計大会で研究発表]

11 月 11 日、弘前文化センターで開催された「青森県統計大会」に、青森県統計グラフコンクールで県知事賞を受賞したメンバーが招待され、「結婚したいのに出来ないのは何故？」というタイトルで堂々した研究発表を行いました。

（左から今井裕樹さん、須藤大貴さん、升沢将汰さん）

[就活キックオフが始動し、企業ガイダンスが開催される]

3 年生対象の「就活キックオフ」が「就職活動実践演習 B」の授業にて 11 月 2 日（木）からいよいよ始動して、事実上の本番の就職ガイダンスに入っていますが、2 回目の 12 月 3 日（木）には、地元企業 8 社を学内にお呼びして「企業ガイダンス・トークセッション」を行いました。

（企業 2 社と進行役を務めるプラットフォームあおもり米田理事長）

今回も進行役にプラットフォームあおもりの協力を頂きながら、1 教室に 2 社を入れて進行役から質問が「会社 PR」、「これまでの学生を採用する際に重視したこと」や「これからの会社の目標」など 4 問を企業さんに順番に投げかけて、答えていただきました。次いで進行役は学生から感想や質問をつのりましたが、各教室とも学生は真剣な表情で各企業の説明に聴き入り、質問の数も多く出ました。

今回のような企画は本学においては初めてでしたが、要するに学生たちがこれから参加することになる企業説明会や企業セミナーの受け方はどうしたらいいのかの基本を学ぶことができたようです。学生たちは感想として、「企業研究を前もってしておき、積極的に質問することを心がけるとともに、様々なことに関心を持って頼れる人材になれるように今後努力していきたい。」と語っていました。（佐藤豊）

[グループ内定報告会が開催される]

11 月 19 日（木）と 12 月 17 日の 4 時間目の二回に分けて 3 年生対象の「就職活動実践演習 B」の授業において、グループ内定報告会が 6 号館と 3 号館にて 1 回目は 10 グループ、2 回目は 11 グループに分かれて実施されました。

参加協力した 4 年生は、1 回目が経営、社会、ソフトの合計 10 名で、2 回目は 11 名でした。内定先は、仙台銀行や、栃木銀行、巣鴨信用金庫、東日本フード、青森県警、消防署、JA 盛岡や福祉系の施設や IT 企業などですが、内定の取れた 4 年生の話に対して 3 年生は真剣なまなざしで耳を傾けていました。

（IT 企業に内定のソフト 4 年生が 3 年生に伝授する）

参加した 3 年生からは、「これまで直接先輩から就職の話を聞くことがなかったが、今回は貴重な体験となった。今後モチベーションを上げて、就活に向けての意識を高めていきたい。」、「実際に就活を経験した先輩の話を聞けたので、本当に就活に大切なことを準備しておくことが具体的に分かった。早く就職活動をしたい。」など、直接に内定の取れた先輩の話を聞いて、刺激になったようで、3 年生はこれを機に早めに就活の準備をしなければならないといったコメントが寄せられました。（佐藤豊）

[精神保健福祉援助現場実習報告]

今年度の実習生は 5 名でしたが、無事全員が実習を終えることができました。個別面談による振り返りとグループによる振り返りを繰り返し、体験の内在化が進み一学生として、専門職種としてどこか逞しさを感じています。4 年生は、精神保健福祉士国家試験受験のために、夜遅くまで勉強しています。

さて、来年度は 6 名の学生（2 年生 4 名、3 年生 2 名）が実習予定になっています。実習施設も確定し実習期間の調整を行っているところです。また、少しでも、実習に対する準備性を高めたいと考え、予備実習 5 日間を春季休業中に実施することにしています。（藤林正雄）

[ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ]

平成 27 年度は 12 名（4 年生 2 名、3 年生 10 名）の学生が、ソーシャルワーク実習Ⅰ（5 月 25 日（月）～5 月 29 日（金）合計 5 日間）、ソーシャルワーク実習Ⅱ（8 月 17 日（月）～9 月 10 日（木）合計 19 日間）合計 24 日間の実習を、9 か所の実習先で行い、無事修了しました。

年度明け前からの実習指導Ⅰによる実習先についての基礎知識の習得や実習に臨むにあたっての心構え、綿密な実習計画の作成等、今年度の実習本番に向けての事前準備にはかなりの時間と労力をかけてきました。そして現場での実践的な体験を通して新たな知識を習得すべく、実習生達は孤軍奮闘してまいりました 。

これらの成果を集約し、今年度後半は継続研究報告書の作成に入ることとなります。また、実習で経験した貴重な内容を発表する機会として、実習報告会を 2 月 4 日（木）に予定しております。(長内直人)

[国家試験対策委員会報告]

今年度の国家試験は平成 28 年 1 月 23 日（土）精神保健福祉士、24 日（日）精神保健福祉士・社会福祉士で実施される予定です。試験まで残り 1 か月をきりました。受験生は、社会福祉士 14 名、精神保健福祉士 5 名、うちダブル受験 4 名です。

今年度は実習室を受験予定者へ開放し、各自若しくはグループで受験対策をするという方針にしました。また、4 回（累計で 12 回）にわたって実施した学内模擬試験や、8 月 24 日（月）～27 日（木）に実施した夏季特別講座、10 月の全国統一模擬試験などを実施しました。その他、受験予定者からの要望を受ける形で苦手科目の特別講座等も不定期に実施してきました。

今年の学生はしっかりと勉強をしている学生と、全く受験対策を行っていない学生の二極化が顕著に表れているという印象があります。できる限りサポートをし、合格者を増やしたいと考えております。合格発表は平成 28 年 3 月 15 日（火）です。多くの学生が合格できるよう、最後まで指導していきます。　(長内直人)

[大学祭で社会学部司書課程の学生が「ねぶた・ねぷた専門図書館」開館]

平成 27 年 10 月 10 日と 11 日の両日、青森大学大学祭において、社会学部司書課程履修の 2 年生と 3 年生が、「ねぶた・ねぷた専門図書館」を実施しました。司書課程主催の「ねぶた・ねぷた専門図書館」は、今年で第 2 回目となりました。当日は県内のねぶた・ねぷたに関する資料、並びに県外の眠り流し・七夕に関する資料、約 340 点を展示し、地域の方々に閲覧していただき、130 名近い方々の来館がありました。同図書館を設営・運営した学生は、小笠原悠、木村拓人、工藤希望、半澤昌士、平田一生（以上 3 年生）、阿部大樹、角谷優理、木浪裕人、坂本風磨、澤田美成、須藤大貴、前田安夢呂、松尾雄太郎、横山智哉（以上 2 年生）の計 14 名でした。他の催しとの掛け持ちが多い中、忙しかったと思いますが、学生のみなさんご苦労様でした。(野崎剛)

[学術論文・著書] (五十音順)

櫛引 素夫　「人口減少下の地域プロモーションと移住促進 ： 青森県弘前市の事例」、News letter = ニューズレター／雇用構築学研究所監修 (46)、 2015 年 7 月、pp.14-19.

小久保 温・柏谷 至・石橋 修・櫛引 素夫・坂井 雄介・佐々木 てる・ 田中 志子、「エコマネーWeb プラットフォームのドメイン・モデルの設計」、第 17 巻 1 号、2015 年 9 月、pp.23-31.

櫛引 素夫　「北信越地域における北陸新幹線開業直後の変化と課題」、青森大学付属総合研究所紀要、第 17 巻 1 号、2015 年 9 月、pp.32-44.

石橋 修 (八戸学院大)・櫛引 素夫・柏谷 至・佐々木 てる・田中 志子・小久保 温・坂井　雄介 (青森大)、「郊外型住宅団地の課題と電子エコマネーの可能性－青森市・幸畑団地の事例－」、八戸学院大学紀要第 51 号（投稿中）.

久慈　きみ代　寺山修司「私への遡行—原風景を探る」、『北奥氣圏11号』（書肆　北奥舎）、7月31日.

澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温・柏谷 至・佐々木 てる・中村和生・木原博, 「ウェブ調査と郵送調査の直接比較 ― 同一サンプルを用いた回答者特性及び自己効力得点の比較 ―」, 第17巻1号、2015年9月, pp. 1−22

[博士学位取得]

藤　公晴　10 月 23 日、State University of New York College of Environmental Science and Forestry にて、博士論文審査試験に合格し、同 12 月に Philosophy of Doctor (Ph. D.) in Environmental Science を取得した。

[学会発表など] (五十音順)

櫛引　素夫　「青森県の 3 市にみるまちづくりと大学の連携」、日本地理学会・秋季学術大会シンポジウム「地方創生に向けたまちづくりに対する大学の役割」報告、2015 年 9 月 19 日、愛媛大学.

「北海道新幹線開業に対する青森県内の意識と課題—青森、弘前、八戸市の調査からー」、日本地理学会秋季学術大会、2015 年 9 月 18 日、愛媛大学.

「青森市幸畑団地における借り上げ空き家の活用事例と課題（第 1 報）」、東北地理学会・秋季学術大会、2015 年 10 月 17 日、上越教育大学.

「北陸新幹線開業直後における北信越地域の変化（速報）」、東北地理学会・秋季学術大会、2015 年 10 月 17 日、上越教育大学.

「北陸新幹線をめぐる議論・視点の普遍性と個別性」、日本都市学会・第 62 回大会シンポジウム報告、2015 年 10 月 31 日、上越市・ホテルハイマート.

「遠隔地の自治体等に対する地域貢献活動の課題摘出ならびに改善案の検討」、平成 27 年度・青森大学教育研究プロジェクト中間報告会、2015 年 12 月 19 日、青森大学.

藤　公晴　　Kimiharu To, Sharon Moran and Andrea Parker,　The 2015 North American Association for Environmental Education Conference Contemplating EE and ESD: How Are We Doing?, 10 月 16 日 in San Diego, California.

[共同研究]

藤　公晴　　Cross-national influence of the term sustainable development upon the field of environmental education: Comparison between the United States and Japan

共同研究者：Sharon Moran (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境学研究科), Andrea Parker (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境科学研究科), Beth Folta (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境森林生物学科)　研究会議実施日：4 月 28 日、5 月 15 日、6 月 19 日、7 月 16 日、8 月 7 日、8 月 14 日、8 月 21 日、9 月 4 日、9 月 18 日.

[報告書・書評・寄稿など] (五十音順)

久慈きみ代　新聞寄稿「寺山修司のいた時代—あおもりなつかし写真帖」　東奥日報、10 月 9 日.

ゼミ報告書『駅を出ると文豪の街—太宰治『思ひ出』の足跡検証—発行、10 月 20 日.

櫛引　素夫　◇東洋経済オンライン（http://toyokeizai.net/）連載「新幹線は街をどう変えたか」

「観光業の活性化だけでは残念すぎるー東北新幹線の延伸で沿線都市が得た『果実』」、2015 年 7 月 9 日.

「『金沢独り勝ち』をどう克服するかー北陸新幹線を喜べない富山県民の複雑な思い」、2015 年 8 月 6 日.

「『第 2 の開業』がもたらした市民の変心ー新幹線『途中駅』になった長野が栄える理由」、2015 年 8 月 24 日.

「開業で新潟県分裂の危機も？‐北陸新幹線開業で露呈した上越の『悩み』、2015 年 9 月 15 日.

「連携構築しづらい『大きな 1 人っ子』ー北陸新幹線開業で浮き彫りになる新潟の苦悩」、2015 年 10 月 9 日.

「異彩を放つ長野北端『ブナの駅』飯山ー北陸新幹線『かがやき』が通過する駅の模索」、2015 年 12 月 2 日.

「遠すぎる終着駅」新函館北斗の問われる真価ー北海道新幹線、運賃や本数…逆風下の開業！」、2015 年 12 月 28 日.

「開業まであと 4 カ月　北海道新幹線の苦悩」、週刊東洋経済 (6630)、2015 年 11 月 28 日、pp.62-64.

[論文査読]

佐藤　豊　　日本比較文化学会「比較文化研究」（No.120）に投稿された論文 1 篇の査読を東北支部編集員として 11 月 30 日締め切りで行った。

藤　公晴　　Nature+Culture 誌　The Helmholtz Centre for Environmental Research (UFZ)　ライプツィヒ，ドイツ　（平成 27 年 10 月）.

[出張講義・講演など] （五十音順）

櫛引　素夫　「自閉症の人たちが住みやすい街づくり～災害時も安心できる地域社会～」、青森県自閉症協会講演会、2015 年 7 月 25 日、青森県総合社会教育センター.

「東北新幹線と北海道新幹線」、青森市・油川寿大学院、2015 年 12 月 18 日、油川市民センター.

「東北新幹線が変えた青森－北海道新幹線開業に向けて－」、鉄道・運輸機構講演、2015 年 9 月 8 日、青森市・アスパム.

「地域防災力をどう向上させるか」、青森市・沖館市民センター研修会、2015 年 11 月 26 日.

「北陸新幹線延伸開業後の現状と対策について」、新潟商工会議所・輸送業部会講演、2015 年 7 月 24 日、新潟商工会議所.

「幸畑における空き家活用について」、不動産保証協会青森県本部・第 1 回青森地区一定課程法定研修会、2015 年 7 月 28 日、青森市・リンクステーションホール青森.

「北海道・新函館北斗開業あと 7 カ月・新幹線をどうみるか－青森・全国の事例から－」NHK 函館放送局・勉強会、2015 年 8 月 26 日、NHK 函館放送局.

「人口減少時代における地域社会と『家』の役割について」、青森県宅地建物取引業協会・ハトマーク消費者セミナー、2015 年 11 月 3 日、青森市・アスパム.

「新潟の新幹線とその活用の課題」、「にいがた２２の会」例会講演、2015 年 12 月 3 日、新潟市.

公開フォーラム「まち・駅・未来を考える－北海道新幹線開業に向けて－」、平成 27 年度青森学術文化振興財団・助成事業、2015 年 12 月 12 日、青森市新町キューブ（青森大学付属総合研究所と共催）.

久慈　きみ代　7 月 12 日『奴婢訓』初演公開ワークショップより「奴婢一般に関する総則」（青森公立大学交流ホール）に演劇団「健康」＆文芸部「幸畑文学」の学生とスッタフとして参加.

8 月 29・30 日　寺山修司演劇祭２０１５第３回　於星野リゾート青森屋、「寺山修司へのオマージュ 5 月序詞」に青森大学演劇団「健康」＆文芸部「幸畑文学」と参加.

10 月 20 日　無形文化財「津軽箏曲郁田流」のしらべ　（リンクステーションホール）企画・実施.

10 月 26 日　五戸町民大学講座講師、五戸町立公民館、於 1 階小ホール

演題「寺山修司の世界―今、なぜ　寺山修司は大人気か―」

11 月 17 日・18 日　名古屋徳川美術館国宝「源氏物語絵巻」鑑賞随行講師.

12 月 4 日～15 日　生誕 80 周年　寺山修司展の催しに、学生と参加.学生には、寺山修司が蒔いた種から、たくさんの刺激を受けた 10 日間であった.

「寺山修司の言葉展」（リンクステーションホール、リンクモア平安閣市民ホールギャラリー、成田本店新町店、Ａファクトリー、その他街中展示）

4 日：「書を捨てよ　町へ出よう」（寺山修司映画上映会）

12 日：寺山修司フォーラム「記念講演増田セバスチャンーｋａｗａｉｉとアングライズム～ポップアイコンとしての寺山修司」

藤　公晴　Kimiharu To, Cross-National Influence of the Term Sustainable Development upon the Field of Environmental Education:　Comparison between the United States and Japan. State University of New York College of Environmental Science and Forestry.　（米国大学におけるセミナー講師）

藤林　正雄　7 月 3 日　十和田市職員向けゲートキーパー研修会　十和田市.

7 月 14 日　苦情解決研修会「精神障がいのある利用者の理解と苦情への対応」

7 月 22 日　平内町教育委員会出張講義「ストレスに対処する」

8 月 6 日　黒石市傾聴講座フォローアップ研修会　黒石市.

8 月 25 日　平川市ゲートキーパー研修会　平川市.

9 月 1 日　弘前市民生委員生活老人部会研修会「気づき、聴く力を磨く～大切な人も命を守るためにできること～」

9 月 2 日、7 日、15 日、24 日、10 月 6 日、19 日　黒石市傾聴講座（6 回）

9 月 16 日　黒石市平成 27 年度未来塾「女・男・輝かせて」講師『実践講座②心を動かす傾聴力～コミュニケーション力向上への第一歩～』出張講義.

9 月 17 日　平成 27 年度青森県障害者雇用優良事業所等表彰式典　特別講演「精神障害者の就労と継続に向けて」　出張講義.

9 月 18 日　十和田市「第 3 回さわやか健康講座」　『あなたのまわりにゲートキーパーはいますか～心の元気は、日頃の声がけから～』

10 月 1 日　青森市　ゲートキーパー養成講座（フォローアップ）

10 月 8 日　安全衛生大会「特別講話」『身近な人の心を支えるために、今できること』ライフリンクとわだ・スマイルラボ.

10 月 13 日、22 日、27 日、11 月 10 日、24 日、12 月 8 日　平川市傾聴講座（6 回）

10 月 15 日　青森地方法務局「平成 27 年度人権擁護委員第三次研修」『精神障がい者の理解と対応～相談対応のヒント～』　出張講義.

10 月 29 日　三沢市　ゲートキーパー研修会（フォローアップ研修）

11 月 6 日　青森市横内市民センター「ストレスに対処する」　出張講義.

11 月 7 日　藤崎町「医療・施設等職員向け　ゲートキーパー研修会」『傾聴・声がけ』

11 月 8 日、29 日　五所川原市ゲートキーパー研修会.

11 月 12 日、17 日　中泊町ゲートキーパー研修会.

10 月 25 日　「精神障害者の理解と対応」八甲学園内部研修.

11 月 27 日　平成 27 年度相談技法研修会（民生・児童委員研修）「相手に寄り添い、心で聴く相談技法」青森県社会福祉協議会.

12 月 1 日　藤崎町傾聴研修会（フォローアップ講座）

12 月 3 日、10 日（1 月 7 日）　七戸町　ゲートキーパー研修会（3 回）

12 月 22 日　青森県立青森工業高校「人間関係で悩まないために」　出張講義.

[地域活動] (五十音順)

櫛引　素夫　特定非営利活動法人青森県防災士会理事.
特定非営利活動法人ひろだいリサーチ理事.
青森地方労働審議会委員.
青森地方最低賃金審議会委員.
青森地方労働紛争担当参与.
「大学生観光まちづくりコンテスト 2015」青森ステージ運営委員.
青森県情報システム課オープンデータ検討会委員.
青森県あおもり共助社会づくり推進事業協働プロジェクト認定審査会・審査員.
人口減少社会対応型商店街構築事業・戦略策定委員会委員.
青森市いじめ防止対策審議会会長.
青森市庁舎活用検討専門家チーム・メンバー.
青森市・幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員.
青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会委員.
新幹線ほくとう総研連携研究会会員.
青森 KEN 民塾世話人.
※青森市、幸畑団地地区まちづくり協議会との連携に基づく「空き家活用ワークショップ」授業（2015 年 7 月 8 日、「地域社会学Ⅰ」授業）
※津島淳衆議院議員・吉俣洋日本共産党東青地区委員長とのトーク・セッション授業（2015 年 7 月 11 日、「地域社会学Ⅰ」授業）
※平内町との連携に基づく「平内町政策推進調査研究会」とのワークショップ授業（2015 年 7 月 15 日、「地域社会学Ⅰ」授業）
※平内町若者ネットワークづくり事業「ひらないのお月見」（2015 年 9 月 27 日）など企画・運営.
※大学祭における青森大学の地域活動紹介（2015 年 10 月 10 日～11 日）
※青森市議会報告会「第 2 回議員とカダる会」浪岡会場ファシリテーター、2015 年 10 月 25 日、青森市浪岡中央公民館.
※弘前市オープンデータ・ワークショップ・ファシリテーター（2015 年 12 月 6 日、弘前市・ヒロロ）
※「大学生観光まちづくりコンテスト 2015」青森ステージ・学生参加指導.
※「道の駅いまべつ」と青森大学の連携協定締結および調査研究事業.
※青森中央高校との高大連携事業による「あすなろ学Ⅱ」プレゼン指導.
※整備新幹線問題等で青森放送、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、北海道新聞、岩手日報、河北新報、新潟日報、ウェブメディア「ビジネス+IT」などに取材協力。インタビュー記事・談話掲載・ニュース報道多数.

藤　公晴　第五次青森県環境計画策定検討有識者会議　委員
会議実施日：平成 27 年 5 月 19 日、8 月 28 日、10 月 29 日.

平内町、ハクチョウのまち再生、ハクチョウまつり事業実行委員会、委員長（平成 27 年 6 月～）.

青森県環境審議会　委員　（平成 24 年度～）.

藤林　正雄　青森県すこやか福祉事業団　第三者評価調査研修会アドバイザー（毎月 1 回～平成 28 年 3 月まで）

青森県運営適正化委員会（苦情解決部会）委員　2 ヶ月に 1 回（7 月、9 月、11 月）

青森県精神医療審査会　2 ヶ月に 1 回（8 月、10 月、12 月）

社会福祉法人「花」評議員会・理事会（8 月、11 月）

ソフトウェア情報学部

[学外実習](角田 均)

ソフトウェア情報学部3年生が情報技術の最新動向を学び、自らのキャリアを意識するための重要科目である「学外実習」が実施された。学外実習では情報関連の展示会への参加を通して、①情報技術に関する最新動向（最新の技術、今後の発展の可能性など）、②情報技術を扱う企業や業界（業務内容、用語など）、③社会人としてのマナー、心構えなどを学ぶことを目的としている。

今年度の学外実習は10月7日～10日に幕張メッセ（千葉）で開催のITとエレクトロニクスの総合展「CEATECジャパン2015」に参加した。広大な会場で「ライフ＆ソサエティ」「Nextイノベーション」「キーテクノロジ」の3つのエリアに分かれて19か国、500社以上の出展者による最新の技術・サービス・製品の展示が行われ、13万人以上が参加する展示会に、ソフトウェア情報学部3年生全員がグループに分かれて見学を実施した。「ウェアラブル」「映像」「ロボット」など、各グループがそれぞれ設定したテーマに沿って事前調査を実施、それにもとづいて展示会での見学や出展者へのヒアリングを行い、レポートにまとめた。

[大学祭](和島 茂)

10月10(土)、11(日)の2日間にわたり、青森大学大学祭が実施された。ソフトウェア情報学部からは研究室(角田、小久保、友田、矢萩、和島)やデジタルコンテンツサークルの学生の作品の紹介、堀端研究室での名刺づくり、緑川研究室から研究室の紹介とクイズの企画が出展された。

[創作ゼミナール発表会] (李 孝烈、坂井 雄介)

12 月 12 日(土)13:00～16:40 に、5102 教室において 3 年生全員による発表会が実施された。「創作ゼミナール」は、2 年次終了時に配属された研究室において、教員の指導のもとで、学生が主体的に研究テーマの設定、研究・開発、および成果発表と報告書作成を行う、本学部の主要科目の一つである。また、この科目はソフトウェア情報学部が設置された平成 16 年度入学生より継続して実施しており、発表会も今回が 10 回目の開催となった。

今年度も、制作したソフトウェア、コンテンツ、および組込みシステムやロボット設計などの多様なテーマに関して発表やデモンストレーションが行われ、とくに学生から質問が教員の質問とほぼ同じだけ出される等、例年に増して学生同士の活発な質疑応答の様子が見られた。

[基本情報技術者試験午前試験免除講座](紅林 亘、小久保 温、角田 均、友田 敏章、李 孝烈、岩淵 護、堀籠 崇、松本 大吾)

ソフトウェア情報学部と経営学部では平成26年度から学部連携事業として、基本情報技術者試験（情報処理推進機構）の午前試験免除講座を実施している。それぞれの学部から提供される授業科目を受講することで、基本情報技術者試験の午前試験を免除するための修了試験の受験資格を得ることができ、本試験では午後の試験に集中することで合格率を高めることを目指す。

初年度である昨年度はソフトウェア情報学部1，2年生の18名が受講し、午前試験免除のための修了試験受験資格を取得、今年度の修了試験では7名が午前試験免除の資格を得ている。2年目となる今年度はソフトウェア情報学部1年生36名のうち33名が受講し、ソフトウェア情報学部として国家資格である情報技術者試験の合格をサポート、さらに上級の資格試験の受験につなげる取組みとして進めている。

[ＣＧ（コンピューターラフィックス）検定合格率 81.3%](緑川 章一)

CG-ARTS 協会主催 文部科学省後援 2015 年後期ＣＧエンジニア検定の合否が発表になりました。ソフトウェア情報学部の学生のうち、16 名がＣＧエンジニア検定（ベーシック）を受験し、13 名が合格しました。合格率は 81.3%でした。合格者の内訳は、

S ランク　2 名
A ランク　5 名
B ランク　6 名

でした。昨年にくらべ、本学からの受験者は少なかったのですが、今年も比較的高い合格率を維持することができました。学生のみなさんが今まで以上に熱心に取組み、努力したことで、このような良い結果になりました。この分野における合格率の全国平均は、例年、60%前後であることからも、学生の頑張りがうかがえます。ＣＧの技術は、様々な分野で重要になっています。

ソフトウェア情報学部では、これからもコンピュータグラフィックスの教育を充実させていきます。

CG 活用例（ソフトウェア情報学部の 3 年生が作成した Web ページ）

[障害児生活訓練用アプリ「ぐんぐん」の開発と実証実験](小久保 温、角田 均、伊藤 真也、新宅 伸啓、田中 志子、柏谷 至、工藤 雅世)

ソフトウェア情報学部の伊藤真也（4 年生）と新宅伸啓（3 年生）が共同で開発した発達障害児の生活訓練用システム「ぐんぐん」の実証実験を、弘前市の NPO 法人「光の岬福祉研究会」の協力のもと、光の岬こどもデイサービスセンターで 11 月 16 日より 3 カ月の予定で開始した。実証実験の開始にあたっては新聞 3 社（東奥日報、陸奥新報、河北新報）からの取材を受け、それぞれ大きく取り上げられた。

「ぐんぐん」はタブレット端末による直感的な操作性と視覚的なわかりやすさをアプリとして実現、特に視覚情報が重要になるアスペルガー症候群の児童の訓練での効果が期待される。また生活訓練の中に「経験値」や「レベル」などのゲーミフィケーションの要素を取り入れることで、児童が楽しく訓練に取り組めるように工夫している。さらにクラウドサービスを利用して情報を管理することで、これまで記録に残すことができなかった訓練の記録や児童の成長の様子を、施設内に限らず、自宅の保護者や学校の教員とも共有可能にした。

今回の研究は平成 24 年よりソフトウェア情報学部と社会学部が株式会社リンクステーションと共同で進めている、地域社会に向けた IT サービスの開発プロジェクトの一環として実施、昨年度の青森大学教育研究プロジェクトに採択された「学生生活「見える化」プロジェクト」の応用として進められており、3 月には日本情報処理学会全国大会で学生（新宅）が研究発表する予定である。また本研究は今年度の大川情報通信基金の助成研究に採択されている。

[あおもり IT ビジネスコンペティションでの学生受賞](澤田 洋二(ソフト 3 年生))

10月18日に青森国際ホテルで開催された「あおもりITビジネスコンペティション」（青森県主催）の提案競技において、県内のIT企業各社からの提案に交じってソフトウェア情報学部3年生の澤田洋二が発表した「360°全天球カメラ「THETA（シータ）」を活用したアプリ開発」がオーディエンス賞を受賞した。

提案競技では青森県内の大手IT企業の代表者や、ITベンチャーの若手社長などが自ら、青森における新しいITビジネスのプランを提案・発表し、ビジネスコンサルティングやクラウドファンディングなどの専門家によって新規性や実現性、地域貢献度などの基準で審査が行われた。今回はそれらに交じってソフトウェア情報学部3年生の澤田洋二が学生として唯一発表を行い、VRとAR技術を駆使した観光向けアプリの開発を提案、スマートフォンによる実演を交えた見事なプレゼンテーションで観客を沸かせ、オーディエンス賞を受賞した。授賞式では審査委員長の江崎浩東京大学大学院教授から賞状が授与され、副賞として国内各地で実施されるプレゼンテーションイベントへの参加旅費（武者修行費）が支給されることとなった。

[Art & Technology 東北 2015](角田 均、小久保 温、和島 茂)

7月4日(土)に岩手大学において行われた、芸術科学会主催のArt & Technology東北2015にデジタルコンテンツサークルとして参加し、メンバーが企画・制作した3つの作品を出展した。

[県内商業高校による合同大学訪問] (小久保 温、角田 均、和島 茂)

青森県高等学校教育研究商業部会との高大連携推進協議会の事業として、県内の 6 商業高校による県内大学の合同訪問を実施した。8 月 5 日の青森大学の見学では経営学部とソフトウェア情報学部による模擬授業を実施し、青森商業高校、八戸商業高校、黒石商業高校の 1 年生 25 名と引率教員 4 名が参加した。ソフトウェア情報学部では小久保による講演(「情報技術がつくる生活と仕事の未来」)と、ソフ

トウェア情報学部の小久保・角田・和島の研究室グループに所属する 4 年生による、学内外との連携研究プロジェクトの紹介を行った。

モバイルアプリ開発 －青森商業高校課題研究との連携－ （石川佳実（4 年））
環境教育ツール －尾駮小学校＋水環境学会との連携－ （大沢遼平（4 年））
障害児教育用システムの開発 －NPO 法人＋企業＋社会学部との連携 （伊藤真也（4 年））
街並み再現の研究 －社会学部＋青森市との連携－ （坂本一吉（4 年））
昆布羊羹を世界に －授業＋地元企業との連携－ （須郷翔大（4 年））

[昆布羊羹を世界に発信するプロジェクト](小久保 温、角田 均、須郷 翔大、藤 公晴)

ソフトウェア情報学部と地元企業の連携プロジェクトとして、青森市の株式会社甘精堂本店とのコラボレーションによる「昆布羊羹を世界に発信するプロジェクト」を実施している。甘精堂が製造・販売する銘菓「昆布羊羹」を素材に、地域の製品をインターネットを通じて世界に発信、販路の拡大を目指す取組みにソフトウェア情報学部4年生の須郷翔大が卒業研究で取組み、Webマーケティングの知見をもとに海外に昆布羊羹を紹介するページの作成と効果の分析に取り組んでいる。

また基礎スタンダード科目「地域貢献演習（全学部2年生必修）」（藤、角田担当）とも連携し、2年生のアイデアによる外国人向けの新しい食べ方やパッケージ、ＳＮＳによる発信などの企画をまとめ、甘精堂本店に提案を行っている。また甘精堂本店の協力のもと、大学祭において来場の外国人（三沢基地や地元ALT）を対象に試食会とアンケート調査も行い、集計結果とともに海外に向けた新しい商品展開、アピール方法などを成果として甘精堂本店に報告した。

[福島 GameJam 2015 青森大学サテライト会場](小久保 温・角田 均)

平成 27 年 8 月 22 日(土)、23 日(日)に、即席のチームにより 2 日間でゲームを作る「東北 IT コンセプト 福島 GameJam 2015」が開催され、今年はじめて青森大学でサテライト会場を開設しました。青森大学サテライト会場の参加者の平均年齢は 17.4 歳で、おそらく全会場中最年少でした。青森工業高校の高校生と青森大学ソフトウェア情報学部の大学生(1～3 年)、計 18 人がチームになってゲームを作りました。青森大学サテライト会場の様子は Ustream により独自にインターネット配信したほか、大会本部のネット配信とも連携して中間発表や最終発表を行いました。

会場には、ゲームエンジンの国際的デベロッパーであるエピック・ゲームズ・ジャパン、青森市内の

IT 企業ページワン、青森県新産業創造課、青森工業高校の方々、首都圏で活躍している卒業生が激励に来てくれました。

「東北 IT コンセプト 福島 GameJam」は、NPO 法人 IGDA 日本(国際ゲーム開発者協会日本)が、東日本大震災からの復興の支援を目指し、平成 23 年夏から毎年開催しているゲーム開発イベントです。福島をメイン会場に、東北地域をはじめ、国内・海外のサテライト会場が連携して開催しています。

https://fgj15-aomori-univ.doorkeeper.jp/events/28946

[Mashup Ideathon 青森で学生の参加したチームが優勝](小久保 温)

平成 27 年 8 月 25 日(火)にワ･ラッセで、即席のチームでアプリのアイデアを競う「Mashup Ideathon 青森 〜WebAPI を使って Mashup サービスを妄想しよう!!〜」において、青森大学ソフトウェア情報学部の学生の参加したチームが優勝しました。

優勝したのはソフトウェア情報学部 大石康正くん(4 年)、澤田洋二くん(3 年)の参加したチームで、「規則正しい生活」を送るのをサポートするアプリのアイデアを提案しました。このアプリのアイデアは、東芝の FlashAir という、無線 LAN 機能を持った SD カードを活用するというテーマに沿って考案したものです。

「Mashup Ideathon 青森」は、リクルート メディアテクノロジーラボが主幹事をつとめるアプリのコンテスト「Mashup Awards 11」の関連イベントです。主催は、Mashup Awards 運営委員会、青森県などです。昨年度も青森と会津で開催された Mashup Ideathon で、それぞれソフトウェア情報学部の学生の参加したチームが優勝しています。

今回は、青森工業高校の高校生や青森大学ソフトウェア情報学部の学生・教員がたくさん参加しました。そして、青森県内の IT 企業からの参加者と一緒に、情報技術を活用したアプリのアイデアを考えました。楽しく白熱した議論が交わされていました。

https://mashupawards.doorkeeper.jp/events/29577

[東北 IT 物産展 2015 で学生がスタッフをつとめました](小久保 温)

平成 27 年 8 月 29 日(土)にウェディングプラザアラスカで、「東北 IT 物産展 2015」が開催され、青森大学ソフトウェア情報学部の学生たちがスタッフをつとめたり、参加したりしました。

「東北 IT 物産展 2015」は、同実行委員会が主催し、青森県新時代 IT ビジネス研究会が共催するイベントです。イベントでは、デザイン・開発・クラウド・ハードウェア・ビジネス・学生・自治体・地域貢献・コミュニティなどに関する様々なテーマで、パラレルにたくさんのセッションが開催されました。

http://tohoku.it-bussanten.website/

[青森ハッカソン 2015 で学生の参加したチームが優勝](小久保 温)

平成 27 年 9 月 11 日(金)-13 日(日)に、即席のチームにより短期間でプログラムを開発する青森県主催のイベント「青森ハッカソン 2015〜スイッチひとつで課題解決！」が、青森公立大学を会場に開催されました。青森大学ソフトウェア情報学部の学生が参加したチームが同点 1 位となりました。

情報技術の進歩により、短期間でプログラムを作ることができるようになり、短時間で集中してアプリのアイデアを考える「アイデアソン」、実際に作る「ハッカソン」と呼ばれるイベントが開催されるようになりました。青森県も 2013 年からハッカソンを主催し、青森大学から教員・学生がアイデアソン、

ハッカソンに積極的に参加・開催してきました。

今回の「青森ハッカソン 2015」には、ソフトウェア情報学部の石川佳実さん(4 年)、須郷翔大くん(4 年)、澤田洋二くん(3 年)が参加し、チームが同点 1 位となりました。チームには、インターネットサービス cakes を運営しているピースオブケイク、位置情報を活用したソーシャルゲームで有名なコロプラ、仙台のテセラクトの方たちも参加してくださいました。学生が第一線の IT 企業の方たちと一緒にアプリを開発できるのもハッカソンのすばらしいところです。

青森大学の学生の参加したチーム「あの日見た地図の名前を僕達はまだ知らない。」では、アニメやマンガの「聖地巡礼」を体験できるアプリを開発しました。近年、アニメやマンガの舞台となった土地を巡る「聖地巡礼」と呼ばれる観光が注目を集めていて、専用のアプリもさまざまなものが開発されています。今回のチームで開発したのは、自分の周囲 360 度を簡単に撮影できるカメラ RICOH THETA を活用したアプリです。

アプリは汎用的なもので、さまざまなアニメやマンガの「聖地巡礼」のコンテンツを作れますが、今回、サンプルデータとしては、弘前を舞台にしたマンガ「ふらいんぐうぃっち」(作・石塚千尋)の聖地である弘前城周辺を取り上げました。「ふらいんぐうぃっち」は、弘前に魔女の修行にやってきた少女の物語で、講談社の別冊少年マガジンにて連載中で、今度 TV アニメ化することが予定されています。

https://www.facebook.com/events/1690774521151394/

[ET ロボコン 2015 東北地区大会に出場](橋本 恭能)

平成27年9月12日(土)岩手県盛岡市のアイーナ（いわて県民情報交流センター）で、ETロボコン2015東北地区大会が開催されました。東北各地の企業、大学、高専、高校など25チームが参加し、ロボットの走行タイムやソフトウェアシステムの設計内容で競い合いました。本学から、ソフトウェア情報学部橋本研究室とETロボコン研究会の合同チーム「青大ロボコン研」（4年大平拓弥、木村和史、1年對馬新）が参加し、走行競技部門とモデリングデザイン部門を合わせた総合成績6位となりました。

[田中美咲さん カーリング全国大会で３位](友田 敏章)

ソフトウェア情報学部 1 年生の田中美咲さんは 11 月 7～8 日に青森市で行われた東北ジュニアカーリング選手権大会にチーム「あおもりユース」のスキップとして参加、優勝し、第 24 回 JOC ジュニアオリンピックカップ・日本ジュニアカーリング選手権大会への出場権を獲得しました。

11月24～29日に軽井沢で開催された全国大会では8チーム総当りの予選リーグを勝ち上がって決勝トーナメントに進み、最終的に3位に入賞しました。

[青森商業高校課題研究指導](小久保 温・角田 均)

高大連携の一環として、青森商業高校情報処理科 3 年生の課題研究をサポートしています。

平成 27 年度は、高校生 8 人と一緒に「青商祭(文化祭)をターゲットとしたフリーペーパーの IT 化」について、ソフトウェア情報学部の学生・石川佳実さん(4 年)を中心に、小久保・角田・和島研究室の学生が共同研究開発を行いました。このテーマは、昨年度の青森商業高校の課題研究で優秀と認められた提案で、今年度はその実用化に取組みました。

青森大学の学生は高校生の技術指導、アプリの開発、プロジェクト・マネジメントを担当し、青森商業高校の生徒はアプリのコンテンツ制作、出展者への説明、広報などを担当することになりました。

青森大学からの技術指導は、青森商業高校にて 4 月 20 日(月)、青森大学にて 5 月 7 日(木) 、6 月 15 日(月)、6 月 29 日(月)のそれぞれ 13:30-15:30 に実施しました。

また、アプリの開発と運用のためのうちあわせを、青森商業高校にて 7 月 13 日(月) 14:00-15:30、9 月 7 日(月)13:30-15:30、9 月 25 日(金)14:35-15:25、10 月 5 日(月) 13:30-15:30、10 月 16 日(金)13:30-14:30 に実施しました。

10 月 10 日(土)、11 日(日)に開催された青森大学大学祭には、高校生も来校し一緒に取組みを紹介しました。

そして、青商祭の当日 10 月 17 日(土)、18 日(日)は、青森商業高校で高校生と一緒になって大学生がアプリを紹介しました。青森大学からは、プロジェクトをメインに担当した石川佳実さんだけでなく、青森商業高校出身の高橋美久さん(1 年)、滝吉由麻さん(1 年)も参加しました。

この課題研究は 11 月 4 日(水)に、青森高校で開催された青森商業高校のビジネスプラン発表会でも紹介されました。その事前練習が、11 月 2 日(月)13:30-15:30 に青森商業高校で行われ、青森大学も協力しています。

また、本年 1 月 27 日(水) 13:45-14:25 に青森商業高校で情報処理科の課題研究発表会が開催され、青森大学からも参加する予定です。

[青森工業高校インターンシップ受け入れ] (橋本恭能、角田 均、小久保 温、和島 茂)

青森工業高校インターンシップの受け入れが7月14日(火)から16日(木)にかけて行われ、青森工業高校2年生11名がソフトウェア情報学部の教員、学生とともに実習を行った。14日と15日午前は、レゴブロックを使ったロボット制御プログラムの開発実習を行い、楕円形のコースに沿って走行するロボットの仕組みを学習し、制御プログラムの制作を行った。15日午後と16日は、学部3年生の葛原尚人、橋本武宗、4年生の大石康正が講師を担当し、AR(拡張現実)での樹木の再現とオフロードカーの物理シミュレーションをテーマに、プログラミングと3Dモデル制作の実習を行った。

[青森工業高校の生徒を対象としたセミナー](角田 均、小久保 温、和島 茂)

6月24日(水)に、青森工業高校において1年生33名を対象とし、入門者向けのグラフィカルプログラミング言語Scratchを用いたセミナーを行った。ソフトウェア情報学部3年生の葛原尚人、橋本武宗が講師を担当した。なお、8月11日(火)にはこのセミナーの受講者が講師となり、一般向けのオープンセミナーを実施した。参加した中学生には大変好評であった。

[東奥学園の生徒を対象とした高校生セミナー](角田 均、小久保 温、和島 茂)

9月4日(金)に、東奥学園の2年生29名を対象としたセミナーが実施された。ソフトウェア情報学部3年生の葛原尚人、橋本武宗が講師を担当し、入門者向けのグラフィカルプログラミング言語Scratchを用いたセミナーを行った。基本的な操作方法から始め、セミナーの最終段階では、受講者はオリジナルのゲームなどを制作できるまでになった。

[青森山田高校情報処理科 1・2 年生に特別授業](角田 均、小久保 温、和島 茂)

9月7日(月)、11日(金)に、山田高校の1年生24名、2年生24名を対象としたセミナーが実施された。ソフトウェア情報学部3年生の葛原尚人、橋本武宗が講師を担当し、Scratchを用いたセミナーを行った。

事後のアンケートでは「プログラミングの楽しさがわかった」などの意見を頂いた。

[青森山田高校情報処理科 1・2 年生に特別授業](橋本 恭能)

青森山田高校情報処理科の1、2年生を対象に、9月16日(水)、12月16日(水)に特別授業を行った。本授業では、レゴマインドストームを使ったロボット製作と動作プログラム開発、さらにグループワークでは、ロボットカーの自動ブレーキ機能の開発を体験した。

[青森工業高校 工業クラブロボット製作部門 arduino 講習実施](橋本 恭能)

本学と連携協定を締結している青森工業高校の工業クラブロボット製作部門の生徒を対象に、arduinoマイコンを使ったロボットプログラミングの講習を2015年7月から開始した。青森工業高校工業クラブロボット製作部門は、平成27年度青森県高等学校ロボット競技大会に出場し、3年生チームが優勝、2年生チームが3位と優秀な成績を修め、全国大会に出場しました。今後もarduino講習を継続していく予定です。

[ロボット教材の体験会イベント開催](橋本 恭能)

平成27年11月9日にロボット教材の体験会イベントが本学で行われた。このイベントはロボット教材販売や教育を手掛ける株式会社アフレルが、全国各地で開催するTETRIXキャラバンの一環で、学科教員や工業高校教諭などが参加し、ロボットの組立てや動作プログラムの開発などを体験した。

[青森第九の会・演奏会鑑賞](白岩　貢、紅林　亘)

基礎スタンダード科目「地域貢献基礎演習」白岩・紅林のクラス 1 年生 38 名(学部横断)が 12 月 13 日（日）リンクステーションホール青森（青森市文化会館）での標記演奏会を鑑賞した。

「発声・話し方」をテーマに授業を展開しているが、そこから発展して歌唱に生かせる声づくりをし、毎年開催される「青森第九の会」の会に合唱団に一員として来年参加することを目標にしている。実際に舞台を鑑賞することで青森の文化活動に参加する意義を確認し、オーケストラとの共演、地域の文化活動に参加するイメージ作りをした。

実際の演奏会に触れるチャンスがほとんどない学生が多い中、感動した、良かった、との声が多数寄せられた。

[活動報告]

白岩　貢【中泊徐福まつり】徐福交流津軽半島音楽祭・出演(共演 : 相馬直子、金木中学校、中里中学校）
2015 年 8 月 23 日、徐福の里公園イベント会場

白岩　貢【青い森音楽祭 2015】独・英歌曲演奏(共演：友田恭子、布施一恵）
2015 年 9 月 15 日、リンクモア平安閣市民ホール(青森市民ホール）

白岩　貢【白岩貢&梅本実(国立音楽大学准教授)リートリサイタル】シューベルト・歌曲集「冬の旅」全曲演奏
2015 年 9 月 20 日、青森公立大学国際交流ハウス、2015 年 10 月 4 日　東京オペラシティリサイタルホール

白岩　貢【NHK 文化センター青森教室一日講座】三木露風&山田耕筰の世界をたどって(共演 : 三村三千

代、吉田信子、相馬直子）
2015 年 10 月 25 日、NHK 文化センター青森教室
白岩　貢【MUSIC PARTY】日・独歌曲演奏、歌唱指導(共演：小木曽美津子)
2015 年 10 月 31 日、おあしす多目的ホール(埼玉県・吉川市民交流センター）
白岩　貢【サロンコンサート・イン・シュトラウス】オペラ・アリアの夕べ(共演 : 吉田信子、相馬直子）
2015 年 12 月 10 日、シュトラウス(新町・甘精堂)
白岩　貢【寺山修司音楽祭 2015～テラヤマミュージックワールド】青森大学校歌、混声合唱曲「不完全な死体」演奏
2015 年 12 月 20 日、三沢市公会堂大ホール

[音楽教室]

白岩　貢　2015 年 10 月 24 日、オープンカレッジ市民大学（叙情歌を楽しむ）
白岩　貢　2015 年 12 月 6 日、今別町立今別中学校(教科書掲載の鑑賞曲や教材の演奏・解説、今別中校歌の歌唱)

[論文]

小久保 温・柏谷 至・石橋 修(八戸学院大学)・櫛引 素夫・坂井 雄介・佐々木 てる・田中 志子、「エコマネーWeb プラットフォームのドメイン・モデルの設計」(査読付)、青森大学付属総合研究所紀要 第 17 巻第 1 号 pp.23-31、2015 年 9 月
石橋 修(八戸学院大学)・櫛引 素夫・柏谷 至・佐々木 てる・田中 志子・小久保 温・坂井 雄介、「郊外型住宅団地の課題と電子エコマネーの可能性 ―青森市・幸畑団地の事例―」、八戸学院大学紀要 第 51 号 pp.1-11、2015 年 12 月 24 日

[学会・研究会発表]

櫛引 素夫・石橋修(八戸学院大学)・柏谷 至・佐々木 てる・田中 志子・小久保 温・坂井 雄介、「郊外型住宅団地の地域課題とコミュニティ再生・活性化－青森市・幸畑団地の事例」、2015 年度 東北地理学会 春季学術大会(仙台市戦災復興記念館)、2015 年 5 月 16 日

[出張講義]

小久保 温、弘前工業高校 大学進学説明会、2015 年 8 月 3 日(月)
小久保 温、黒石商業高校 情報処理特別授業、2015 年 10 月 22 日(木)
小久保 温・坂本 一吉(4 年) ・葛原 尚人(3 年)、浪岡高校 進路ガイダンス、2015 年 11 月 13 日(金)
小久保 温、秋田県立能代松陽高校 希望分野別模擬授業(講義)、2015 年 11 月 26 日(木)
小久保 温、青森山田高校 進路相談会(説明会)、2015 年 11 月 30 日(月)

[外部資金獲得]

白岩　貢【公益社団法人日本演奏連盟/山田康子奨励・助成金】シューベルト・歌曲集「冬の旅」全曲演奏会
2015 年 10 月 4 日、東京オペラシティリサイタルホール（100 千円）

[委員等]

白岩　貢　第 33 回青森市民第九の会、ドイツ語・合唱指導

薬　学　部

[平成 27 年度 中高生の薬剤師体験セミナー]

8 月 29 日・30 日に青森大学と青森県教育委員会の共催による「中高生の薬剤師体験セミナー」を開催しました。

これは、昨年に引き続き、3 回目の開催です。昨年より多くの参加者を受け入れるため、2 日間の開催としています。

県内の中学校・高等学校を通じて参加者を募集したところ、中学生 91 名、高校生 102 名の応募がありました。1 日目は中学生 28 名・高校生 30 名、2 日目は中学生 30 名・高校生 30 名が薬剤師の仕事を体験しました。

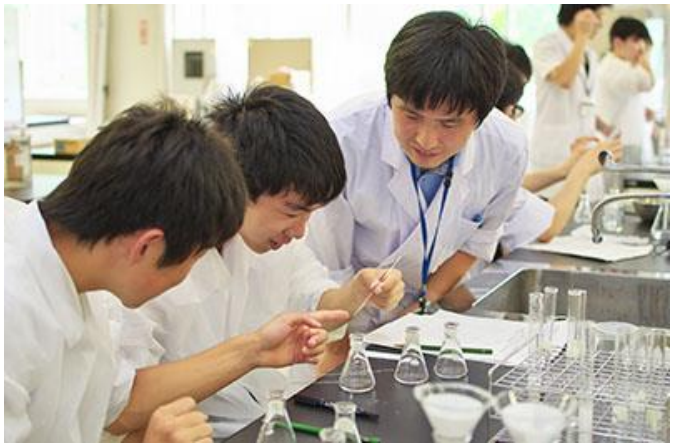
中学生は、化学物質の成分分析体験、軟膏・散剤・錠剤の調剤体験、現役薬剤師（本学薬学部卒業生）との座談会を行いました。高校生は、サロメチールとアスピリンの合成体験、合成した薬の成分分析体験、軟膏・散剤・錠剤の調剤体験、現役薬剤師（本学薬学部卒業生）との座談会を行いました。

そして、本セミナーには本学薬学部の在学生 5 年生の 9 名に手伝っていただきました。参加した中学生・高校生の皆さんの、進路選択の幅が広がったと思います。

（青森大学ホームページより）

[秋田県大館市の「中高生の薬剤師体験セミナー」開催]

7 月 25 日（土）、秋田県大館市と青森大学の共催による「中高生薬剤師体験セミナー」を開催しました。前回は大館鳳鳴高等学校で実施しましたが、今回は遠路バスにて青森大学に来ていただきました。大館市の中学校・高等学校を通じて参加者を募集したところ、中学生 15 名、高校生 8 名の参加者となりました。午前は、軟膏・錠剤の調剤体験、現役薬剤師との座談会を行いました。薬剤師との懇談には大館の薬剤師 3 名に協力を頂き、活発な話し合いがもたれました。



（青森大学ホームページより）

[日本薬学会東北支部大会にてポスター賞を受賞しました]

本学薬学部６年の平尾航君が、９月２６日（土）に岩手医科大学で開催されました第 54 回日本薬学会東北支部大会において「機能抗体作製のためのオーファン受容体 GPR126 の精製」という演題で発表し、ポスターセッションで優秀な三十歳以下の若手研究者に贈られるポスター賞を受賞しました。５年生から実験を開始し、６年生の授業の合間にもコツコツと行った実験成果が認められました。

（青森大学ホームページより）

[県立青森中央高等学校との高大連携] （天内　博康）

県立青森中央高等学校が実施している“総合的な学習の時間”の「あすなろ学Ⅱ」について、研究発表に向けた「情報のまとめ方・伝え方」を、昨年度に引き続いて指導しました。４年目となる今年は、社会学部櫛引素夫准教授、社会学部美濃香講師、薬学部天内博康の３人で担当し、１１月に３回の指導をしました。１２月１１日には、あすなろ学Ⅱ実践研究発表会が全校生徒の前で行われました。

[出張講義などの実施状況]

平成 27 年 7 月から現在まで（平成 27 年 12 月現在）の出張講義申し込み状況

NO	依頼先	講義日	氏名	学科	講義テーマ
1	オープンカレッジ	8 月 21 日	大上哲也	薬学科	認知症と治療薬
2	青森南高校	9 月 18 日	上田條二	薬学科	身近な民間薬
3	幸畑団地地区町づくり協議会（認知症カフェ）	9 月 19 日	大上哲也	薬学科	認知症予防
4	あおもり健康企画	9 月 29 日	上田條二	薬学科	漢方薬って
5	板柳高校	10 月 1 日	大上哲也	薬学科	認知症とお薬
6	青森県薬剤師会	10 月 4 日	上田條二	薬学科	漢方概論
7	平内町社会福祉協議会	10 月 29 日	上田條二	薬学科	漢方薬はなぜ効くのか
8	青森西高等学校	10 月 30 日	大越絵実加	薬学科	天然物からの肥満抑制機能素材の探索
9	正覚寺（認知症セミナー）	11 月 10 日	大上哲也	薬学科	認知機能バランサー
10	青森県すこやか福祉事業団	11 月 10 日	上田條二	薬学科	漢方薬はなぜ効くのか
11	青森市西部市民センター	12 月 11 日	上田條二	薬学科	漢方薬はなぜ効くのか

[報告論文]

Suzuki, K.; Daikoku, S.; Son, S. -H.; Ito, Y.; Kanie, O. Synthetic study of 3-fluorinated sialic acid derivatives; *Carbohydr. Res.*, *406*, 1-9 (2015).

Daikoku, S.; Seko, A.; Son, S. -H.; Suzuki, K.; Ito, Y.; Kanie, O. The relationship between glycan structures and expression levels of an endoplasmic reticulum-resident glycoprotein, UDP-glucose: Glycoprotein glucosyltransferase 1; *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, *462*, 58-63 (2015).

Sriwilaijaroen, N.; Suzuki, K.; Takashita, E.; Hiramatsu, H.; Kanie, O.; Suzuki, Y. 6SLN-lipo PGA specifically catches (coats) human influenza virus and synergizes neuraminidase-targeting drugs for human influenza therapeutic potential; *J. Antimicrob. Chemother.*, *70*, 2797-2809 (2015).

[学会発表など]

田嶋裕久、二つ森俊一、中田和一「ILS LOC の積雪障害の遮蔽フェンスによる改善」
電子情報通信学会技術研究報告（宇宙・航空ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ研究会），2015 年 7 月 24 日，電子航法研究所

平尾 航, 水野憲一「機能抗体作製のためのオーファン受容体 GPR126 の精製」第 54 回日本薬学会東北支部大会　９月２６日(土)

[1] 益見厚子、[3] 滝澤和也、[2] 水上拓郎、[2] 倉光球、[2] 百瀬暖佳、[2] 浜口功（1 青森大・薬、2 国立感染研、 3 放医研）インターフェロン制御転写因子 IRF-2 の造血幹細胞への役割
第 54 回日本薬学会東北支部大会　９月２６日（土）

村上浩一 [1]、本木雅大 [1]、大越絵実加 [1]、梅村直己 [2]、上田條二 [1]、（1 青森大・薬、2 朝日大・歯）青森県

産食品素材に関する研究－干菊の成分研究－　第 54 回日本薬学会東北支部大会　９月２６日（土）

[講演]

永倉透記　「新たな研究課題として浮上する”機能障害性疼痛”の病態機序解明への取組み」平成 27 年度日本薬学会東北支部・第 37 回東北薬学セミナー、仙台、2015 年 12 月 12 日

[学会活動など]

藤田　均：日本造園学会東北支部常任委員として、10 月 24 日、平成 27 年度の造園学会東北支部大会（山形県鶴岡市東北公益文科大学大学院）に参加した。藤田も入った公開シンポジウムの討論会での結論として、2008 年のリーマンショック以降、各大学で造園学の学生数が減りつつあること、国民が自然の配置、緑の確保、野生動植物に目がいかなくなっていることが原因の 1 つということになった。このため今後は Landscape Architecture として国民、市民の需要をしっかりと捉えた研究をすることを申し合わせた。

[社会活動・地域貢献など]

藤田　均：委員として次の活動をした。

青森県・青森県公共事業再評価等審議委員会委員、青森県下北半島ニホンザル保護管理対策協議会委員（会長）、青森県ニホンジカ管理対策検討科学委員会委員（会長）

三沢市・仏沼保全活用協議会委員（副会長）

藤田　均：青森大学オープンカレッジ所長及び講師として、生涯学習教育事業である青森大学オープンカレッジの各講座に携わった。

具体的には、一般社会人を対象とした市民大学講座（20 回＋オプション 2 回）、みちのく散歩みち（4 回＋オプション 2 回）、大自然トレッキング（5 回）及び夏休み植物のふしぎ観察会の主宰である。詳しくは、本ニュース内別稿「青森大学オープンカレッジ」参照。

天内　博康　青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会委員

※平内町若者ネットワークづくり事業「ひらないの語り場」「ひらないのお月見」など企画・運営